



高文連

第 7 号

山回県高等学校文化連盟

島文連

第 7 号

も く じ

あいさつ	1
山口県高等学校文化連盟各部門の報告	2
第17回山口県高等学校文化祭の記録	
総合開会式	16
(音楽関係4部門)	
器楽・管弦楽部門	20
合唱部門	21
吹奏楽部門	22
マーチングバンド・バトントワリング部門	23
(日本音楽・吟詠剣詩舞部門)	25
(展示関係部門)	
美術・工芸部門	27
書道部門	30
写真部門	31
(囲碁部門)	32
(演劇部門)	33
(放送部門)	35
第19回全国高等学校総合文化祭の記録	37
器楽・管弦楽部門	38
合唱部門	39
吹奏楽部門	40
マーチングバンド・バトントワリング部門	42
日本音楽部門	44
吟詠剣詩舞部門	45
美術・工芸部門	46
写真部門	47
書道部門	48
囲碁部門	49
放送部門	50
自主事業	52

参考資料

第10回全国高等学校文芸コンクール都道府県別応募状況一覧	60
(部門別応募状況、入賞作品数一覧、山口県受賞作品一覧)	61
平成7年度山口県高等学校文化連盟〈事業報告・会計決算書〉	62
平成8年度山口県高等学校文化連盟〈事業計画・会計予算書〉	64
山口県高等学校文化連盟規約・諸規定(会計、事務局、表彰、旅費支給基準)	66
平成7・8年度山口県高等学校文化連盟役員一覧	71
全国高文連の歌	73

ごあいさつ



山口県高等学校文化連盟

会 長 桂 雄 三

山口県高等学校文化連盟の活動に、平素からご理解、ご協力をいただいています関係各位にまず心から謝意を申し上げます。全国の高等学校文化連盟も発足以来10年を経て、高校生の文化活動の推進母体として発展していることは喜ばしい限りであります。

さて、「文化の灯 今 ここに」のテーマで今年度の本県高文連の各専門部の活動がくり広げられました。平成7年6月16日に、下関市民会館で開かれた総合開会式では、下関西高校を主管校とする地元豊閑地区各学校のご協力をいただきました。とりわけ、慶祝演奏のプログラムに含まれていた、ベートーベンの交響曲第九番の演奏には、地元の高校生750名の合唱に先生方の独唱も加わって、ホール一杯の聴衆に感動を呼び起こしました。これに続く音楽4部門の発表会に始まって、12部門それぞれに工夫をこらし県内各地で発表会が催されたのでした。こうした仲間の発表会に、一人でも多くの皆さんが足を運んでくださることを願っています。

8月4日から、「燃えよ創造の炎 日本海を夢色に染めて」の標語をもとに新潟県で開催された全国高等学校総合文化祭には、例年どおり250名の本県代表が参加し、平素の精進の成果を存分に発揮してくれました。参加するに際しては、遠路ということもあって大変なご苦勞をおかけした部門もあったと聞いておりますが、全国の高校生の文化活動の成果を披露し、評価し合い、併せてお互いの交流を深めていくための意義ある大会として定着してきたことを感じるすばらしい発表が続きました。特に、地元の高校生の皆さんの大会運営への積極的な参画が随所に見られ、出演者と観・聴衆との一体感が一層演技や演奏を盛り上げていたように思います。

本県の平成7年度事業も、関係者の方々のご尽力、ご支援により無事終えることができました。来年度から新たに将棋部門が加盟され、13部門となることが決まっております。また、慎重な審議を加えていただいた結果、来年度からの会費の値上げも決定されました。各分野における活動の輪を広げ、より多くの仲間とより高い水準を目指して技術をみがいていきたいと考えております。

終わりに、常に心強いご支援をいただいた県教育委員会に深甚なる謝意を申し述べますと共に、この一年間高文連活動にご協力くださいました関係各位に心からお礼を申し上げて、発刊のごあいさつといたします。

山口県高等学校文化連盟各部門の報告

器楽・管弦楽部門

理事長 松永忠雄
(下関南高等学校教諭)

山口県高等学校文化連盟器楽・管弦楽部門では今年度、次のような事業を行いました。

1. 平成7年度第17回山口県高等学校総合文化祭総合開会式において慶祝演奏として合唱部門との合同演奏

6月16日(金) 下関市民会館

曲目 ベートーヴェン：交響曲 第九番
「合唱付き」第Ⅳ楽章

指揮 松永忠雄(下関南高等学校)

器楽・管弦楽部門より83名出演

2. 平成7年度第17回山口県高等学校総合文化祭音楽4部門発表会

6月17、18日(土、日) 下関市民会館

参加8校、各校によるギター、マンドリン、管弦楽の演奏 350名出演

3. 第19回全国高等学校総合文化祭新潟大会

8月6日(日) 上越文化会館

山口県代表 下関南高等学校

(曲目 ラヴェル：ボレロ)

4. 平成7年度山口県高等学校文化連盟 器楽・管弦楽部会

12月14日(木) 下関南高等学校校長室

部会長以下、出席者9名

第15回器楽・管弦楽スプリングコンサート(岩国大会)、県総文、全総文、高文連表彰などについて協議

5. 第15回山口県高等学校器楽・管弦楽スプリングコンサート

3月25日(月) 岩国市民会館

参加8校、各校によるギター、マンドリン、管弦楽などの演奏

- *平成7年度全国学校合奏コンクール

中国大会 最優秀賞受賞

山口中央高等学校

(曲目 ベートーヴェン：エグモント序曲)



合唱部門

理事長 石島 栄子
(野田学園高等学校教諭)

山口県高等学校文化連盟、合唱部門に関して
行われた今年度の行事を、報告いたします。

1. 山口県高等学校合唱講習会

5月28日(日)

開幕式典を控えての講習会

講師：矢田正一(大阪音大助教授)

内容：発声と曲作り

曲目：ベートーベン交響曲第九 合唱

場所：下関西高等学校体育館

参加者：227名

2. 平成7年度第17回山口県高等学校総合文化

祭総合開幕式典において慶祝演奏

6月16日(金)

下関南高等学校管弦楽団との合同演奏

・ベートーベン交響曲第九「合唱」

県高校合唱団 276名

(下関地区4校の音楽授業選択者約500名と)

3. 平成7年度第17回山口県高等学校総合文化 祭音楽4部門発表会

6月17日(土)、18日(日)

下関市民会館

4. 第19回全国高校総合文化祭

8月7日(月)

新潟県六日町文化会館

山口県代表：宇部中央高校合唱部

青島広志作曲「マザーグース」を

ダンス付きで好演

5. NHK 学校音楽コンクール県大会

8月23日(水) 徳山市文化会館

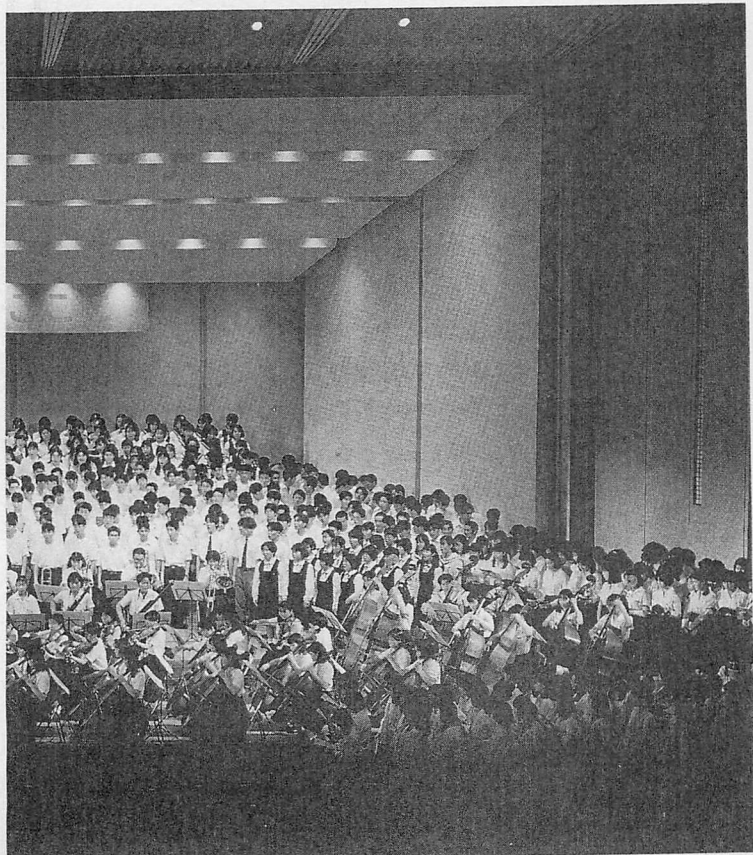
6. AJCL(全日本合唱連盟)コン クール

県大会(山口市) 9月3日(日)

中国大会(広島市郵便貯金ホー
ル) 9月30日(土)

7. 高文連合唱部会

12月14日(木) 野田学園高等学
校



◀第17回山口県高等学校
総合文化祭総合開会式
(下関市民会館)

吹奏楽部門

理事長 椎木 浩二
(徳山高等学校教諭)

平成7年度山口県高等学校文化連盟吹奏楽部門の活動状況を報告いたします。

1. 県総文総合開会式

総合開会式は《文化の灯 今 ここに》をテーマに、下関西高等学校主管のもと、6月16日(金)下関市民会館で盛大に開催されました。

吹奏楽部門は下関地区高等学校合同吹奏楽団(市内6校)を編成して、式典並びに慶祝演奏に参加いたしました。

[式典]“ファンファーレ”、“高文連の歌”

[慶祝演奏]“春の猟犬”、“スプリングマーチ”

指揮 中村芳喜先生(下関工業高等学校)

2. 県総文音楽4部門発表会・連合音楽会

総合開会式に引き続いて6月17日(土)～18日(日)の2日間、音楽4部門発表会並びに連合音楽会が同じく下関市民会館で開催され、吹奏楽部門関係では56校2,031名の多くの学校や生徒が参加し、すばらしい演奏を披露してくれました。

3. 全総文新潟大会

全総文新潟大会吹奏楽部門は8月5日(土)～6日(日)の2日間、新潟県民会館大ホールの立派な会場で開催されました。

各都道府県から42校の参加があり、山口県からは長府高等学校吹奏楽部52名(指揮:友永次郎先生)が2日目に出演し、曲目“ジブシー男爵”“スパイ大作戦のテーマ”を演奏しました。女子生徒ばかりの演奏でしたが、迫力ある演奏で会場から絶賛の評が聞かれました。

4. 高文連吹奏楽部会総会

本年度吹奏楽部会総会を12月5日(火)徳山高等学校で開催いたしました。

県下45名の吹奏楽指導担当者が出席され、本年度事業報告や来年度事業計画、全総文「北海道大会」への参加推薦等の多くの協議事項に対して活発な意見がなされました。特に、本年度は全総文への推薦内規や吹奏楽部会規約の新規作成については一定の方向が見いだされたことは大きな収穫でした。

5. 吹奏楽部会研修会

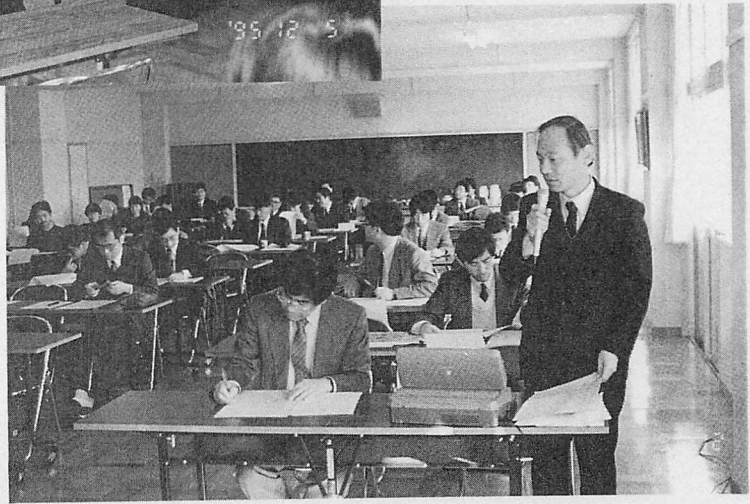
部会総会終了後、部会研修会を開催いたしました。

講師には、全国高等学校吹奏楽指導者としてトップの座に君臨しておられる、精華女子高等学校吹奏楽部顧問の藤重佳久先生に來校していただき、「やる気の出る指導法」を演題に講演していただきました。

先生のきめ細かな運営指導や愛情のこもった実技指導等の体験談やコンクール至上主義から脱却されたすばらしい考え方等のお話は感動的でした。日頃、吹奏楽の運営や指導に頭を悩ませている我々現場の指導者にとっては大変よい勉強になりました。



▲
吹奏楽部総会 ▶



▲
吹奏楽部研修会 ▶



マーチングバンド・バトントワリング部門

理事長 花村 慈 照
(宇部女子高等学校教諭)



◀ 県総文
早鞆高等学校

県総文
▼ 佐波高等学校

本年後のマーチングバンド・バトントワリング部門の状況をふりかえってみますと、本年度は宇部女子高等学校のプラスバンド部が参加され、マーチングバンドは4校となりさらに県内で数校が活動されているようで、ぜひ参加されることを希望しております。バトントワリングは3校であり、他の部門と比べても大変参加校が少なく、大きな活動をするためには、部門への参加をすすめております。

本年度の行事参加は6月16日（金）に下関市

民会館でおこなわれた、第17回山口県高等学校総合文化祭への部門参加をし、また8月4日（金）より新潟県で行われた第19回全国高等学校総合文化祭に山口県鴻城高等学校のマーチングバンドと宇部女子高等学校、三田尻女子高等学校の2校合同のバトントワリング部が参加し、大変な好評を得ました。同部門は平素は地元の諸行事に積極的に参加し、地元の人々よりあたたかくむかえられています。

日本音楽部門

理事長 **中野靖子**
(中村女子高等学校教諭)

平成7年度の山口県高文連日本音楽部門の主な活動を報告します。

1. 山口県高等学校総合文化祭

山口県高等学校総合文化祭日本音楽・吟詠部門は、歴史と文化の香り高い白壁の町・柳井市で柳井高等学校を主管校とし、6月18日サンビームやないを会場として開催されました。今年は昨年よりも2校多い20校が参加しての大会でした。

嬉しいニュースとして早鞆高等学校が新たに加わったことです。本来なら郷土芸能部門に入るべきところですが、本県にはこの部門がありませんので日本音楽部門に入っての参加でした。勇壮な平家太鼓、三絃太鼓の音とともに25名の多数の高校生がサンビームの舞台をとことろ狭しと思う存分源平音頭をとどろかせてくれました。今後一層の活躍を期待しているところです。

さて平成8年度の大会は厚狭高等学校を主管校として6月16日山陽町文化会館を会場として、開催する予定です。

終りに今年度の大会を開催するにあたり御尽力を賜りました柳井学園高等学校に対し、心からお礼を申し上げます。

2. 全国高等学校総合文化祭

8月6、7の2日間にわたり新潟市で開催されました。本県からは柳井高等学校が県を代表し演奏しました。全国大会出場の中から優秀校3校、国立劇場での演奏が約束されていることもあってか、年々レベルが高くなっています。柳井学園高校の皆さんは良い勉強ができたことと思います。来年度は《星よ 集え 輝け 北斗の地に》のスローガンのもと北海道で開催され、厚狭高等学校が参加する予定です。

▼早鞆高等学校



吟詠剣詩舞部門

理事長 藤井 美恵子
(聖光高等学校教諭)

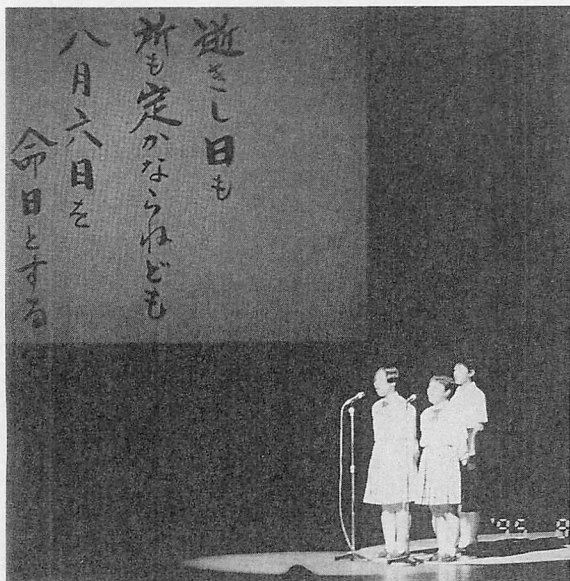
平成7年度山口県高等学校吟詠剣詩舞部門は日本音楽部門と共に、柳井市のサンビームやないを会場に6月18日に開催されました。

この県大会は、数年前までは萩工業、下関工業、下関女子短大付属、中村女子校、聖光高等学校と多数の生徒が出場し、大変盛況でしたが、それぞれの学校の事情で1校、2校と去ってゆき、その当時の学校は中村女子高等学校と聖光高等学校のみとなり、段々寂しさをおぼえるようになってきました。そうした折、去年からサビエル高等学校が参加され、すばらしい発表をされるようになったことは、この上ない歓びです。そして今大会は、何と14名という若い高校生が舞台上に並び「山中の月」を朗朗と吟じ「これぞ合

吟」という発表をしました。

中村女子高等学校と聖光高等学校は2校ながら去年にひき続き構成吟を発表しました。今年の題は「原爆記念日 感有り」でした。「……忘れもしません。あれは昭和20年8月6日の朝。そうです。今から丁度50年前のことです……」とナレーターが語り始め、原爆の悲惨さを、スライド、短歌、七言絶句を折り込んで吟じ、平和を願う気持ちを若者らしく発表しました。県大会ではまだ練習不足のところも見られましたが、8月7日の新潟であった全国大会では、吟の心を自分のものとして発表したので会場の平和を願う人と一体となり、大変よい発表となりました。

尚、山口県大会に先だち6月16日の下関市民会館で開催された総合開会式では「吉田松蔭辞世句」を、吟、中村女子高等学校、書、下関西高等学校で書道吟を披露し、式典を盛り上げることができました。



▲県総文
中村女子・聖光高等学校

県総文
サビエル高等学校▶

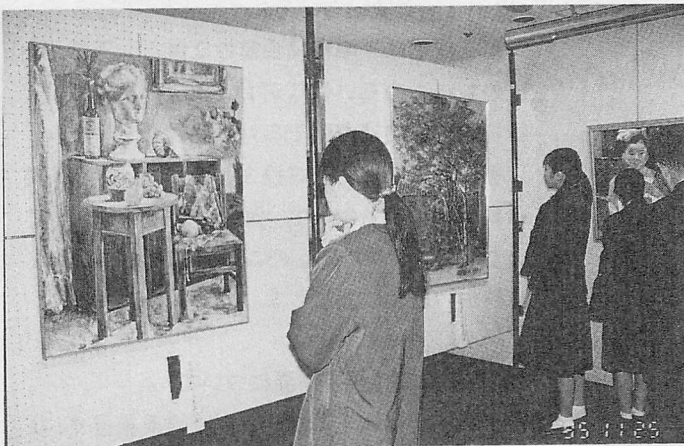


美術・工芸部門

理事長 庄島信基
(厚狭高等学校教諭)



▲県総文/展示部門オープニングセレモニー



▲県総文/美術・工芸部門 (岩国市民会館)

平成7年度美術、工芸部門の行事について報告します。

1. 県高校総合文化祭開会式慶祝展示

下関市立文化会館で6月16日～18日に行われました。下関地区の各校に作品の出品及び展示をお願いしました。壁面制限の為展示作品をしばり地元を考慮してお願いしました。各校の特色が出た作品であり効果的であったと思います。ことに豊浦、長府を始め下関地区各校の先生方には、準備及び展示その他で大変お世話になった事を記しておきます。承知のとおり、この事業は次に述べる全国高校総合文化祭につながります。生徒諸君の努力が問われるのであります。自分の思いどおりに仕上がらないのが芸術の良さであり、挑戦しがいがあるのです。少々の失敗をおそれずに何度も何度もくり返し戦ってほしいです。そうした、もがきの中にこそ真に自分を見つけることができると信じます。

2. 全国高校総合文化祭展示部門

8月4～6日新潟県長岡市の県立美術館に全国から出された作品が展示されました。山口県からは矢野容子(山口高等学校)大柿美佳(下関商業高等学校)末益慶子(萩工業高等学校)後藤桂子(宇部中央高等学校)上野陽介(下関中央工業高等学校)の作品が出品されました。生徒諸君のキャンパスに向かう強い姿勢がうかがえ好感が持てました。又、各出品校の指導者の意気込みも素晴しく全国のレベルに一歩もひけをとっていない力作であると自負しています。会場は広くゆったりと取られており、照明効果も良く作品群をゆっくり鑑賞できました。こうした文化施設にも新潟県の文化に対する高い認識がうかがえた大会でもありました。山口県もこうした文化面への注目を高めて、より充実した活動が行われるよう願うものです。

3. 県高校総合文化祭展示部門

今年度主管校岩陽高校より報告

書道部門

理事長 荒瀬 宏
(徳山高等学校教諭)

(県総合開会式について)

慶祝展示は下関市民会館の立派な会場で、地区のレベルの高い作品が12点陳列されました。特に書道部門は力作ぞろいで感動しました。

書道吟は中村女子高校3名の力強い吟と下関西高校男女2名の漢字・仮名合作揮毫が新鮮でした。指導された先生のご苦勞とともに柔軟な高校生の若さに感動しました。

(山口県高校教員書道展について)

第18回展は天上の高い下関市立美術館で、はじめて展示することができました。部門研修費全額にて開催でき、研究紀要に写真として記録できたのも幸運でした。何しろ立派な会場に負けぬ力作をと少々力んで出品したのですが、力負けの感じが残りました。日頃から大作へ取り組み、新しい実験の場として活用してゆきたいものです。次年度も同じ会場を予定しています。ことし以上の力作を一人でも多くの先生方に出品をお願いします。それにしても、下関地区の皆さんには猛暑の中、数々のお世話をいただきお礼申し上げます。

(全総文新潟大会に参加して)

遠い日本海岸での開催でしたが、県代表4校(下関西高等学校・香川学園高等学校・小野田工業高等学校)が出品、小野田工業高等学校を除く3校が参加しました。良寛の遺蹟多く、会津八一の記念館など書的環境にめぐめれており、文化の香りの高い大会でした。高校生の作品は年々大型化し、手本の存在がなくなりつつあ

り、若さが表現されてきた感じです。指導者の意識の变革は生徒の“創る”意識を高め、ジート見守る姿勢が作品に現れてきました。部活動で一番楽しいことであり、大事なことです。生徒交流会では、「タコ」に揮毫し、友人との会話とともに、書くことの楽しさ、難しさを痛感したことでしょう。

(県総文展示部門発表会について)

11月下旬という期末考査直前の展示、会場の狭さと会期2日間という悪条件が重なり、折角の展覧会も観賞者が少なく残念でした。1校3点以内、計74点の中から、次年度全総文出品候補作品4点が投票で選ばれました。高水高等学校・防府高等学校・中村女子高等学校・下関西高等学校が飛行機で涼しい北海道へゆきます。北海道は会場が広く半切を全紙にまで拡大せねばなりません。気力の充実した作品が出来ますよう祈ります。

(書道部門会議より)

12月5日、徳山高等学校に14名が集まり、今年の反省をしました。教員展の作品サイズの検討(より多様な形式を考える)、次年度県総文の予定(11月中旬までに防府高等学校主管で行い、より多くの出品参加をしてほしい)自刻印の使用(作品のスミズミまで創る意識を持つ)などが話し合われました。

写真部門

理事長 元 永 百合心
(小野田工業高等学校教諭)

1. 県高校総合文化祭開会式慶祝展示

今年度は美祢工業高等学校を中心に、柳井高等学校と小野田工業高等学校からの10点を展示しました。

今年度の全国大会(新潟)に出品された4点を含め、見応えのある力作を展示し好評を得ました。

2. 全国高校文化祭新潟大会

平成7年8月4日(金)～7日(月)

新潟県民会館ギャラリー

本県の出品作品

柳井高等学校 宮本正明『もがく』

奨励賞受賞

分かり易く、ユーモアあふれる

作品、シンプルさがよい。

小野田工業高校 石島三男『たたき売り』

美祢工業高校 吉田喜弘『愛犬もも』

〃 吉村純一『勝利への祈り』

〃 岡崎裕幸『漁のあと』

全国大会の審査の観点

- (1) 作品の狙い(何を撮影したかったか)
- (2) 表現力(狙いが的確に表現されているか)
構図・フレーミング・トリミング
- (3) 作品から伝えられるもの(見る人に感動を与えるか)
感性・チャンス
- (4) 基本を大切にされた作品(現像・引き伸ばし・技術面)
製作技術・色調・スポッティング

(5) 高校生の部活動としての写真に理解 教育活動

3. 研修会及び撮影会

10月8日(日)宇部湖水ホールにおいて、日本報道連盟支部長宮村義明氏を講師に、午前中に撮影についてのノウハウを写真部員及び顧問教師合わせて50人の参加の下、実施いたしました。写真撮影は誰もが経験し、身近い存在であるわけですが、シャッターチャンス・トリミング・暗室技術と奥の深いものと再認識いたしました。午後からは常盤公園に入園(入園料は宇部市の好意により無料)し、個々に園内を散策、撮影会も無事終了することができました。

平成8年度の研修会の開催については、様々な意見が出ましたが、県内28校しかない写真部の活性化に如何に取り組んでいくか、また、生徒減による文化部門の休部も絡んでおり、写真部が継続されるか否かといった切実な声もあり、各校共に共通した悩みを抱えていることを顧問同志の率直な意見交換の場として有意義な研修会であったと思います。

教師集団の中に写真に対するノウハウを持ち併せている者も少ない中、顧問自らが実践を通して技術の向上を目指していきたいものです。

4. 県総合文化祭展示部門

今年度は岩陽高等学校の主管のもと、岩国市民館において開催されました。18校82点と昨年を上回る出品数がありました。詳細については本誌第17回県高総文祭の記録に記載しています。

囲碁部門

理事長 塩谷敏彦
(小野田高等学校教諭)

平成7年度の山口県高文連囲碁部門の主な活動は、次の3つの事業でした。

1. 県総合開会式慶祝展示

本年度は下関西高等学校の主管のもとで、6月16日～18日に下関市民会館において総合開会式が開催されました。内容は、前年度の県大会や研修会の様子を写した写真展示でした。下関西高等学校の伊藤秀男先生に企画運営をしていただき、大変感謝をしています。

2. 第17回県総文囲碁部門第7回大会 兼全国高文連囲碁部門第9回大会県予選

10月27日(日)に小野田高等学校において開催され、参加選手は男女合計50名で、4回の対局をおこない、最後まで熱戦を繰り広げました。その結果、

団体戦	優勝	宇部鴻城高等学校(男子)
	優勝	徳山高等学校(女子)
名人戦	優勝	縄田 五良(男子)
	優勝	今井由美子(女子)
団体選手決定戦		
	優勝	福永 直昭(男子)
		勝原 聡洋(男子)
		秋本瑞矢江(女子)

となりました。なお、名人戦優勝者2名、団体選手決定戦優秀者3名は、平成8年8月9日～10日に北海道江別市でおこなわれる全国大会に出場する予定になっています。

3. 山口県高文連囲碁部門研修会

小野田高等学校の主管のもと、平成8年2月

4日(日)に小郡町の西日本公務員専門学校において開催されました。内容は、渡辺堅一プロ(日本棋院6段)による来年度全国大会出場者への対局指導及び理事を中心にした指導碁でした。渡辺プロには、対局終了後生徒達との感想戦をしていただく等大変親身な御指導をいただき大変感謝しています。

以上3つの事業活動において、宇部鴻城高等学校の黒瀬孝泰教頭先生にはいつも適切な御指導・御助言をいただき大変感謝しております。

最後に、囲碁大会への参加者が年々減少傾向にあることが大変残念でなりません。囲碁は簡単で経費もかからず世界中に普及しているゲームです。勝敗にとらわれず是非多くの生徒の皆さんに大会参加をお願いします。

本年度より小野田高等学校が事務局を担当することになり、大変御迷惑等もおかけしていると思いますが、来年度もう1年頑張りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

▼県総文/囲碁部門(小野田高等学校)



演劇部門

理事長 石井末雄
(下関商業高等学校教諭)

〔県全体の特徴的な動き〕

山口県高等学校演劇協議会の生みの親であり、山口県の高校演劇の育成と向上、発展のために多大の貢献をされ、山口県高文連の理事長を長年にわたって務められた西村司先生の訃報に接したのは、'95年10月21日のことでした。先生は現役引退後1年間は、もとの勤務校に講師として勤務されておられましたが、昨年6月頃より体調を崩され、入院治療を続けられ、9月には、いったん退院されたとのことで、1日も早いご回復を念じていた矢先のことでした。先生には、現役引退後もひきつづき、地区・県大会の審査員や講習会の講師としてご活躍いただいていただけに、ほんとうに残念でなりません。この場をお借りして、先生のご冥福をお祈りいたします。

もうひとつ残念なことは、演劇部顧問の相次ぐ転勤です。お一人は、全国大会出場の経験もあり、山口県高校演劇界のリーダー格である倉田先生であり、もう一人は、中国高校演劇協議会の理事を務め、劇作もしている船岩先生です。転勤先の高校で両先生が、演劇活動を展開され、そこに新たな高校演劇の組織が広がっていけば喜ばしいことなのですが、転勤先の高校には演劇部も存在せず、両先生の力量を発揮する演劇活動は、ちょっと困難な状況にあるようです。

組織状況としては、加盟校が昨年より1校ふえて、37校となりましたが、地区大会に出場しない高校が、昨年と同じ4校あります。しか

し、この中の2校は、例年出場している高校なので、今後のがんばりを期待したいと思います。

「部員がじゅうぶん集まらない」「台本が見つからない」「部費が少なくて活動できない」など、高校演劇部共通の悩みが、そこにはあるように思われます。それらを克服する特効薬はありませんが、演劇による自己表現をしたいという生徒の心の中に眠っている要求を顧問が、どうひき出すかにかかっているように思います。

〔地区大会〕

意欲的な一人芝居に取り組んだ高校や、創作脚本賞を出すようなすぐれた創作劇を上演した高校など、全体的にそのレベルは着実に向上しているように思われます。

中には、一人よがりな創作で何を言いたいのかわからないもの、書き込み不足で劇的盛り上がり欠けるものなど創作劇の出来不出来の差が大きかったようです。

初参加の高校が、発声も演技ものびのびと上演していたのは印象的でした。他校の演劇をじっくりと鑑賞し、審査員の講評を参考にしながら演劇のつくり方を学んでほしいものです。

〔講習会について〕

今年度は、3月26日、下関市文化会館で、下関地区の合同公演を素材にして開催します。講師には西京高校の小林茂樹先生をお迎えすることになりました。昨年に続き、県内の講師でやれるところまで力がついた証拠ともいえます。

放送部門

理事長 青木幸子
(山口中央高等学校教諭)

▼ 県総文/総合開会式 進行/下関西高放送部

1. 県総文祭総合開会式

本年度は下関西高等学校主管のもと、6月16日に下関市民会館で開催されました。下関西高等学校放送部員を中心に開会式の進行を担当し、慶祝演奏においては、長府高等学校放送部員が、軽妙かつ機知に富んだアドリブをまじえてのインタビューを行いました。カッコリとした部分とソフトな部分とがうまく合体した下関地区の放送部員の活躍によって、総合開会式が、みごとな盛り上がりで幕をとじました。日頃の放送部活動は、地味でめだたないものですが、練習の成果と発揮できる場を持つことができたのは、大きな自信につながったと、司会進行および補助として協力した生徒達は感動のおもちで語っていました。

2. 全国総文祭新潟大会

8月7日～8日の2日間、新潟県弥彦村の弥彦総合文化会館で開催されました。はじめての全国総文出場ということで、各学校とも練習に余念がなく、本番においても堂々とした見事な発表を行いました。山口県からは、下記の学校及び生徒が出場しました。

アナウンス部門	下松高校	温品由季
		栗山弘子
	山口中央高校	二川 愛
朗 読 部 門	長府高校	高橋亜希子
	日置農業高校	原田博美
	山口中央高校	小田村朋恵
ビデオレター部門		
	桜ヶ丘高校	「長穂念仏踊」



オーディオピクチャー部門

山口中央高校 「風船爆弾」

この中で、山口中央高等学校の二川愛さんの「スポーツアワー」～これは、山口県出身の投手、津田恒美さんに対する彼女なりのレクイエムの思いを作品化したアナウンス原稿です～と、同じく、山口中央高等学校のオーディオピクチャーの作品「風船爆弾」が、奨励賞を受賞しました。戦後50年ということもあり、タイムリーな素材であったことでもあります。母校の先輩の日記を中心に作品を展開していったことが、多くの人々の共感をよんだようでした。BGMの使用の仕方、ドラマドキュメントによる台本構成が高く評価されての受賞でした。全国大会に出場した生徒は、各々、各県ごとの話題捜しに奔走し多くの取材を重ねて原稿づくりに励んだというもののばかりで、郷土色あふれた、バラエティーに富んだものの中に、郷土に対する素直なあったかな思いがうかがえ、会場全体も、ほのぼのとしたムードにつつまこまれていました。

▼全総文/放送部門会場・弥彦総合文化会館



3. 県総合文化祭放送部大会

本年度は山口中央高等学校の主管のもと11月5日山口中央高等学校で開催されました。20校75人の参加があり、山口放送、城菊子氏、国本泰功氏の審査により次の生徒及び作品が来年度の北海道大会に推薦されました。

アナウンス部門	山口中央高校	石丸由香
	〃	廣兼千恵子
	萩高校	井町陽治
朗読部門	萩高校	杉本暁子
	〃	石田将之
	岩国高校	村本怜子

ビデオメッセージ部門

野田学園高校 「山口発・映画制作の夢」

オーディオピクチャー部門

山口中央高校 「ザ・山口弁講座」

4. 放送部会研修会

県総文祭放送部大会の生徒交流会において、毎日の練習方法についての実践的指導をうけたという強い希望がでたことを受けて、3月下旬に山口中央高等学校において、アナウンス・朗読を含めた「はなし方の実践的講座」を設定することになりました。話し方のノウハウについては、テキストやカセットテープによる指導だけでは、十分理解できないものが多いということで、プロのアナウンサーに具体的な文章をもとにしゃべり方、読み方の指導を受けるという研修会を企画しています。

スタートしてまだ日の浅い放送部会ではありますが、生徒のあふれんばかりのエネルギーパワーに期待し、部活動をより活性化してゆきたいと思います。

総合開会式

於：下関市民会館

主管校 三好五郎
(下関西高等学校教諭)

▼第17回山口県高等学校総合文化祭総合開会式（下関市民会館）



第17回山口県高等学校総合文化祭開会式は、「文化の灯 今 ここに」を大会テーマに平成7年6月16日（金）下関市民会館大ホールで開催されました。

当日は梅雨時期でありながらも天候に恵まれ、小河啓祐県教育長、江島潔下関市長をはじめ多数のご来賓をお迎えし、専門部を代表する約850名の出演者と会場一杯の聴衆の皆様とで盛大で感動的な開会式となりました。

式典は、下関南高等学校生徒代表の高田知里さんのしっかりとした開会宣言にはじまり、下関地区6校の選抜メンバー80名による合同吹奏楽団の高らかなファンファーレが鳴り響きました。指揮は昨年まで下関商業高等学校吹奏楽部で活躍された中村芳喜先生が務められました。続いて「高文連の歌」の演奏にのり各専門部の

代表が入場し、桂雄三高文連会長のあいさつ、来賓の祝辞や歓迎の言葉をいただき、さらに長年にわたり本連盟に寄与された繁富健治（前高文連会長）、重広昭雄（前専門部理事長）のお二人に芸術文化功績賞が桂会長より授与されました。続く各部門紹介では紹介の放送に合わせてそれぞれの部門の活動状況をスライドに投影してみましたはどうだったでしょうか？

会場は少々騒ついた昨年の反省を生かし、地区各高校割り当ての観客動員は止め、出演者及び市内各校の吹奏楽部、管弦楽部員、主管校1年生、下関南高3年生美術・書道選択者及び一般の入場者とし、そのためもあってまことに静かでした。

午後2時から行われた専門部による慶祝演奏は、地元早鞆高平家太鼓部による力強い演奏で

華やかに開幕しました。続いて書道吟「吉田松蔭辞世句」は中村女子高吟詠部、下関西高書道部合同で演じられ伝統的な芸術を味わせてくれました。宇部女子高によるマーチングバンド・バトントワリングでは若さ溢れた演技が披露され、地区合同吹奏楽団の演奏は合同練習の少なさを感じさせないくらい好演でした。しかしなんとと言っても高校生750名による最後の第九は圧巻でした。今年度は11月に下関を会場の開かれた第26回中国・四国音楽教育研究大会での研究演奏発表「授業の生徒で第九を歌おう」と重なったためのプログラムで約550名の授業生徒は合唱部のみなさんのリードで感動的な貴重な体験をさせていただきました。なお、このことが後の研究大会でのすばらしい演奏につながっていったことをお礼の気持ちを込めて付記しておきます。

これらステージの司会進行、幕間インタ

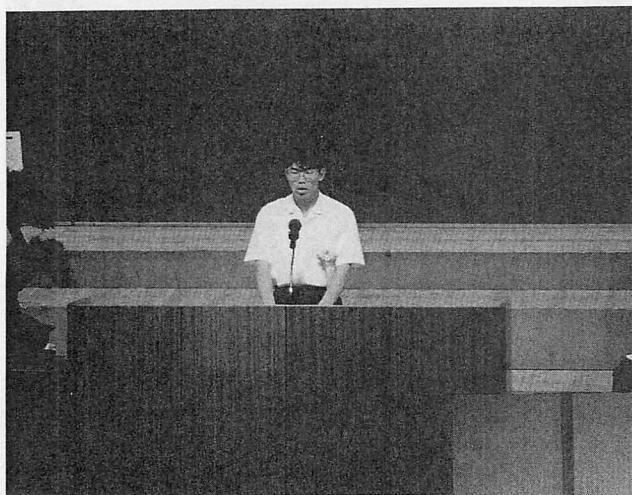
ビューは下関西高等学校、長府高等学校放送部の皆さんがすてきな進行役を務めてくれました。

一方下関市民会館展示室では、美術・工芸、書道、写真、囲碁等、県内各校より秀作が集められ慶祝展示がおこなわれ、多数の生徒が、熱心に見入っていました。

さて、前年度主管校（宇部高校）からバトンタッチされ本校を主管校に地区先生方と共に実行委員会を組織し、下関方式として運営致しました。経費節減と、先生方の負担をできるだけ軽減しホットな大会をめざしましたが、結果的にはずいぶん負担を掛けてしまいました。先生、生徒諸君の献身的な協力をいただいて大会が成功したことは、言うまでもありません。

また、下関市、市民会館の協力、とりわけ駐車場として便宜を図って下さった、国鉄精算事業団等の地元の助成なくしては絶対開催も不可能でした。改めて紙面をお借りしてお礼申し上げます。またご参加下さったすべての皆様本当にありがとうございました。

来年は、萩市民会館でお会いいたしましょう。



▲県総文/総合開会式
主管校生徒代表
下関西高等学校/橋本博幸君

県総文総合開会式
▼「平家太鼓」早鞆高等学校



◇慶祝演奏

〈日本音楽〉「平家太鼓」

〔出演〕早稲高等学校

〈吟詠剣詩舞・書道〉書道吟「吉田松蔭辞世句」

〔出演〕中村女子高等学校・下関西高等学校

〈マーチング・バトントワリング〉

「CRAZY GONNA CRAZY」「私の夏」

〔出演〕宇部女子高等学校

〈吹奏楽〉

「春の猟犬」「スプリングマーチ」

〔出演〕下関地区合同吹奏楽団

〈合唱・器楽・管弦楽〉

「交響曲第九番第4楽章より」

〔指揮〕松永忠雄

〔合唱〕山口県高等学校合唱団

下関南、下関西、豊浦、長府高等学

校合同合唱団

〔管弦楽〕山口県高等学校管弦楽団

〔全員合唱〕「みんなのふるさと」

◇慶祝展示

〈美術・工芸〉

〔出品校〕豊浦、長府、下関南、下関商業、
下関中央工業、早稲、下関養護、
下関西、各高校

〈書道〉

〔出品校〕下関南、下関商業、響、早稲、下
関女子短期大学付属、下関西、
各高校

〈写真〉

〔出品校〕小野田工業、美祢工業、柳井、各
高校

〈囲碁〉

〔出品校〕萩、小野田、下関西、各高校

◇進行アナウンス

〈放送〉式典 進行

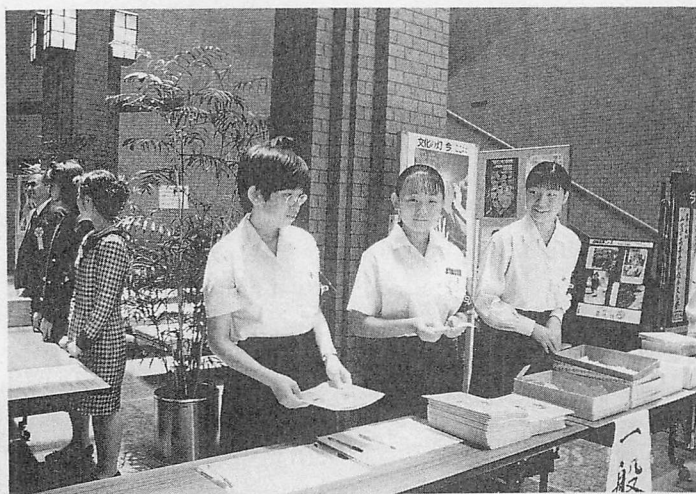
下関西高等学校放送部

慶祝演奏 〈幕あい出演及び進行〉

長府高等学校放送部



▲県総文総開会式「交響曲第9番第4楽章」山口県高校合唱団・下関地区合同合唱団・山口県高校管弦楽団



▲受付風景



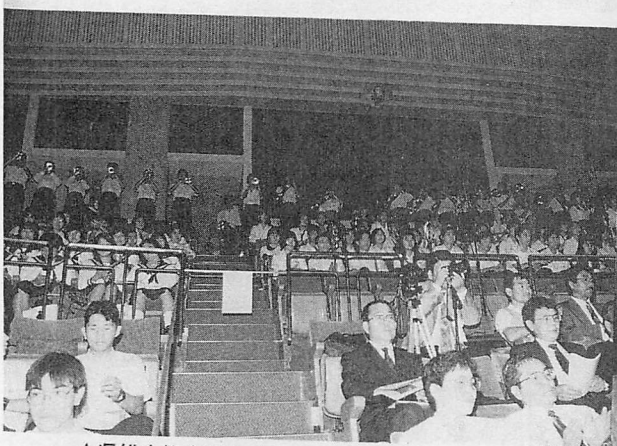
◀長府高校・白井雅子さんのイラストを基にしたポスター



▲幕間の余興



▲幕あいのインタビュー 長府高校放送部



▲県総文総合開会式ファンファーレ



▲県総文総合開会式/慶祝展示会場

音楽関係 4 部門発表会

器楽・管弦楽部門

会場：下関市民会館

理事長 松永忠雄
(下関南高等学校教諭)



▲山口中央高等学校管弦楽部

平成7年度第17回山口県高等学校総合文化祭総合開会式、および音楽4部門発表会は6月16日(金)、17日(土)、18日(日)の3日間、下関市民会館の大ホールにおいて行われました。

器楽・管弦楽部門にはオーケストラ5校、ギター・マンドリン合奏3校の参加があり、多数の参加があった吹奏楽部門(50数校)に混じって一服の清涼剤ともいえる立派な演奏を披露して、大会を盛り上げました。

しかし、なんといっても、例年行われている開幕式典でのオーケストラとコーラスによる慶祝演奏(曲目 ベートーヴェン:“第九”より第四楽章)は圧巻で、下関市民会館のステージいっぱいとなった出演高校生の若い、歓喜の歌

声が大ホールに響き渡りました。750名を越える混声合唱と下関南高の管弦楽部を中心に編成された80数名のオーケストラ、さらには声楽を専門とされている高校の先生方のソロと、その合同演奏はスケールが大きく、聴衆に深い感銘を与えました。式典当日朝、短時間の合同練習にもかかわらず、よくまとまり、出演生徒も大いなる感動を体験しました。

管弦楽は技術や編成、あるいは普及など見るに、一部を除いて「まだまだ」という現状があります。また、ギター、マンドリンなども一般的には愛好されて普及されているように思われますが、本格的な合奏となると、これまた決して十分とは言えません。

ともあれ現在、山口県内で部活動としてオーケストラを組織している高校は5校、ギター・マンドリンは3校。全国的にみても少ないと思われます。「高校レベルでは技術的にも経済的

に無理だ」という声もあります。ハイレベルな吹奏楽活動が実践されている今日、出来ないことはありません。山口県内に立派なスクールオーケストラやギター・マンドリン合奏が誕生することを願います。

第17回県高総文祭の記録

合唱部門

会場：下関市民会館

理事長 石島 栄子
(野田学園高等学校教諭)

▼野田学園高等学校



平成7年度山口県高等学校総合文化祭の音楽部門の発表会は6月17日(土)、18日(日)の2日間、下関市民会館にて開催されました。前日の開幕式典の大合唱の興奮も醒めぬままの会場で高校生の熱心な演奏が続きました。

オーケストラボックスまで備えた広くて素晴らしい会場で、演じることの楽しさを十分味わうことが出来たことを感謝しています。合唱部門の発表はほとんど第1日目に集中、お互いを聞く時間的余裕は難しかったようですが、お昼時間を中心に合唱のプログラムが集められており、声が出しやすいようにとの配慮が感じられ有難かったです。13校の参加のうち小は4人

から大は68人の合唱団が出場しました。日頃は男声合唱、女声合唱の地元豊浦高等学校と長府高等学校の合同混声合唱の楽しい試み、初めての合唱劇(野田学園高等学校)の上演や、ヴィオリンやダンスの入った愉快的なマザーグース(宇部中央高等学校)など目新しいものも見られました。願わくば合唱人口がもっと増すことです。また歌うだけでなく、表現の幅広さ、演技力を含めて合唱表現の研究を試み、合唱が楽しく深いものであることを追及していきたいです。

歌うことは訴えること!

歌うことは演じること!

吹奏楽部門

会場：下関市民会館

主管校 **三好五郎**
(下関西高等学校教諭)

第17回山口県高等学校総合文化祭音楽4部門の発表会は、総合開会式の翌日、6月17日(土)、18日(日)の2日間、下関市民会館で開催されました。

吹奏楽部門は55校、2,040名と今年も多数の参加をいただきました。演奏レベルは年々向上していてどの団体もすばらしい演奏を披露してくれました。コンクールとはまた一味違う演奏会でとてもよかったと思いました。ただ、お互い他団体の演奏もしっかり聞き合いたいものです。これもよい演奏をするのと同様とても大切なことだと思います。県内各地から参加しますので様々な事情があるとは思いますが、できるだけ会場を埋めたいものです。また、会場内での、ガム、飴等も絶対慎みたいものです。開幕式典への吹奏楽部門参加は、下関地区6校(下

関商業、下関西、早鞆、下関工業、豊浦、長府)68名の合同吹奏楽団を編成し、下関工業高校中村芳喜先生のもとファンファーレで華やかに開会しました。続いて高文連の歌の演奏で各部門が入場しました。そして慶祝演奏は「スプリングマーチ」と「春の猟犬」の2曲を演奏しました。僅かに3回の合同練習しかしていませんがすばらしいサウンドを聴かせてくれました。

司会進行アナウンスをしてくれた下関南、下関商業、下関西高の皆さんご苦労さまでした。

最後は、昨年同様、下関商業の演奏で「ふるさと」を全員合唱して、来年の萩市民会館での再会を約束して幕を閉じました。参加して下さった皆さん、裏方をしてくださった皆さん、全ての関係者の皆さん本当に有難うございました。心よりお礼申し上げます。

▼萩高等学校



マーチングバンド・バトントワリング部門

会場：下関市民会館

理事長 花村 慈 照
(宇部女子高等学校教諭)

今年度の山口県高等学校総合文化祭は6月16日(金)下関市民会館で総合開会式が行われ、慶祝演奏で宇部女子高等学校ブラスバンド部の演奏により、宇部女子高等学校のバトントワリング部が「CRAZY GONNA CRAZY」[私の夏]の曲によって演奏演技を行いました。今年度初めての宇部女子高等学校のブラスバンド部が参加されました。2日目の6月17日(土)、音楽4部門の発表会では、早鞆高等学校の「ライオンキング」、三田尻女子高等学校の「レッツセレブレイト アワーユース」、宇部女子高等学校「テクノクラシック」以上3校がバトンの演技を行いました。またマーチングバンドでは山口県鴻城高等学校の「マグナ」「チエラ」・佐波高等学校の「ウオーウオートウナイト」「虹の彼方に」。宇部女子高等学校の「新世界より」「ディズニーマジック」以上

3校のステージドリルが行われ、会場から大きな拍手を受けました。

「私達の県総文-スワンのように」

三田尻女子高等学校バトン部

徳本 淳子

私達の第46回山口県高等学校総合文化祭、連合音楽祭は、『ウオルトディズニー』の『スワン』によって華麗に始まりました。ピンクのレオタードに身を包んだ私達は様々な大会が重なり、県総文をわずか1週間という短期間の練習で迎えました。緊張と不安に笑顔もこわばりがちでしたが、しかし音楽が流れ、いよいよ演技が始まると部員全員の顔は笑顔にあふれ、私達はメロディに溶け込んでいきました。『醜いアヒルの子が苦難を乗り越え仲間を見つけ、やがて立派な美しい白鳥となり、自信と誇りと気高



▲宇部女子高等学校

さに輝く時、私達の演技も最高潮を迎えます。銀色にきらめくバトン、張りつめた会場の空気。友の笑顔、私達は白鳥となって羽ばたいたのです。』みんなで作りあげこの感動を躍動を体全体で感じ、喜びを共有できる瞬間です。団体行動の厳しさの中、心をついに合わせなければ完璧な演技は出来ません。友を思い一人ひとりの必要性をひしと感じ、どんな時でも笑顔を忘れてはならないということを学びました。

「三年最後の県総文」

宇部女子高等学校バトン部

今日は6月17日（土）です。いよいよ最後の県

総文、会場は下関市民会館です。私の胸は緊張と不安で高鳴ってます。いてもたってもいられなくなり、全員で外の駐車場で練習をしに行きました。そこに卒業された先輩が見学にこられ、先輩に会えてうれしい反面、あまり成長していない私達の姿を見られるのがはずかしくもあり、辛くもありました。練習中、先輩から、顔の付け方などを指導されました。幕も上がり、いよいよ本番です。今までの練習の成果を発揮する時が来ました。私達にとって、これ以上ないというくらいの最高の笑顔で演技しました。会場からは大きな拍手が聞こえて来ます。スポットライトの明が消え、三年最後の県総文も無事に幕を閉じました。

私達3年にとって、この県総文は最高の思い出となりました。

◀三田尻女子高等学校

▼山口県鴻城高等学校



日本音楽部門・吟詠剣詩舞部門

会場・下関市文化会館

主管校 原田文恵
(柳井学園高等学校教諭)

第17回山口県高等学校総合文化祭、日本音楽・吟詠部門発表会は、「文化の灯 今ここに」というテーマのもと、去る6月18日(日)柳井市の文化ホール“サンビームやない”に於て開催されました。

当日は県内各地から、21校227名の参加があり、一日中熱心な演奏が繰り広げられました。

箏曲の演奏では、独奏から15名の合奏まで細やかに優しく、あるいは澁刺とした調べが奏でられ、この1年の厳しい練習ぶりが伺えました。

度々の出演を重ねてこられた県立聾学校18名による「陶ヶ岳太鼓」、初出場の早稲高等学

校23名による平家太鼓「源平音頭」は力強く勇壮な演奏で大いに注目を浴びました。

また、吟詠部門ではサビエル高等学校の、14名による合吟「山中の月」、中村女子高等学校、聖光高等学校2校8名による構成吟は、実に堂々として立派な発表でした。

特に山口県文化連盟作による構成吟「原爆記念日感有り」は、折りしも戦後50年を迎えたこの年にふさわしく、スクリーンに写される映像とともに原爆の悲惨さを切々に訴え、朗々と吟じられました。構成吟の最後に

もはや過ぐ五十年の憂い未だ去らず



◀岩国高等学校
久賀高等学校

▼県立聾学校



原爆許し難し同胞の叫びを
忘れない一節になることと思います。

各学校それぞれに一年間の成果を滞りなく発表され、また来年の再会を約して帰っていかれました。

ふり返ってみますと主管校をお引き受けはしてみましたものの、初めての経験ではあり、全くの手さぐりでやってまいりました。不行き届のため出場校にご迷惑をおかけしたことと思いますが、大過なく終了することができましたのは、山口県高文連の皆様方の御協力と日本音楽部門理事長中野靖子先生、吟詠剣詩舞部門理事

長、藤井美恵子先生に、御指導いただきましたお陰と厚く御礼申し上げます。

また最後に、日本音楽部門では前厚狭高等学校教頭松村房子先生に、吟詠部門では前下関工業高等学校講師辛島茂樹先生に御講評をいただき、本発表会を更に実のりあるものとしていただきましたことに深く感謝致しております。

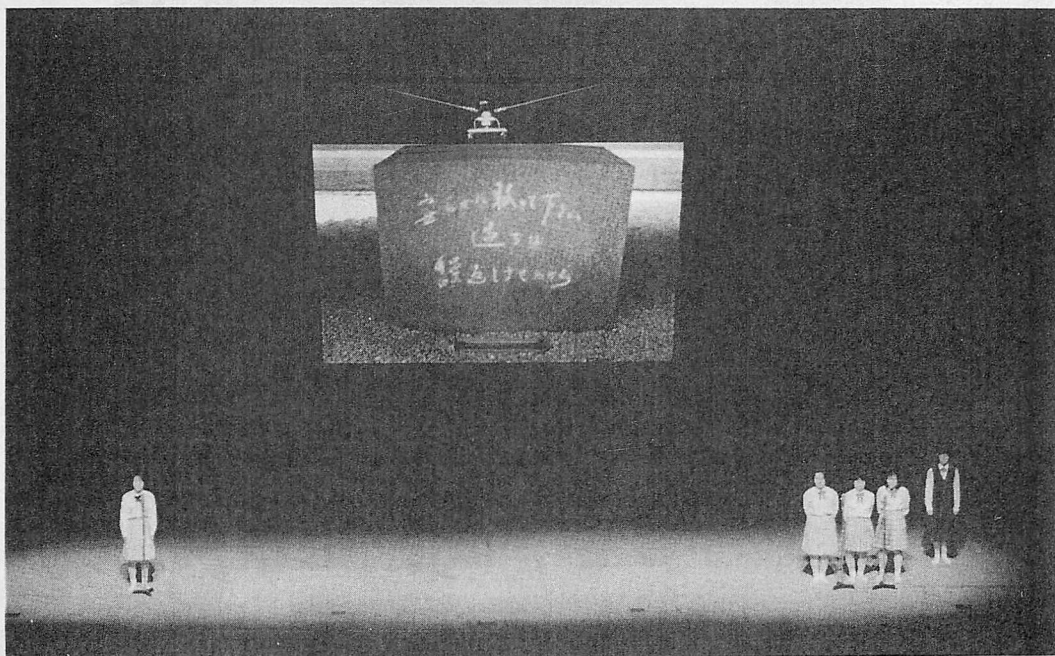
また当日は、本校の生徒全員が観客として参加させていただきましたが、その感想文の中に山口県立聾学校、盲学校の皆さんの演奏に「とてもすばらしかった」「すごいと思います」などの感想が数多くあったことを書き添えたいと思います。

なお、8月に新潟市で開催されました全国高等学校総合文化祭日本音楽の部に、本校の10名の生徒が参加させて頂き有難うございました。



◀受付風景

▼構成吟
中村女子高等学校
聖光高等学校



展示関係部門

会場：岩国市民会館

美術・工芸部門

会場：岩国市民会館

平成7年度第17回山口県高等学校総合文化祭
展示部門（美術・工芸、書道、写真）は11月25
日（土）～25日（日）の2日間、岩国市民会館
で開催されました。岩国地区での開催運営に
は、岩陽高等学校を主管校とし、岩国地区の8
校の協力によって行われ、市民会館の展示室な
らびに研究室の全てを使用し、美術・工芸、書
道、写真の作品が展示されました。オープニ
ングセレモニーを皮切りに翌最終日は午後から各
部門別に講評会も催されて、大会は無事幕を降
ろしました。

実施日程及び運営に携わっての反省・感想は
以下の通りです。

実施日程

- 1、平成5年度9月中旬 開催場所の岩国市民
会館の確保交渉を行う。
- 2、9月下旬会場を岩国市民会館に決定。
- 3、5月下旬校内委員会を発足。
- 4、7月6日 第1回運営委員会

10時より 岩陽高等学校会議室

[出席者]

・主管校、岩陽高等学校（横沼校長、平原

▼美術・工芸部門オープニングセレモニー生徒代表あいさつ（岩国市民会館）



教頭、島田（司会）、山中、杉本（記録））

・協力校

岩国高等学校（石橋、廣本、環乃）、岩国商業高等学校（林田）、岩国工業高等学校（平田、岡、竹内）、広瀬高等学校（野村、木坂）、高水高等学校（久保田、岩見屋）

・前年度主管校 豊浦高等学校（新谷）

・次年度主管校 防府高等学校（有富）

・各専門部理事

＜美術・工芸＞厚狭高等学校（庄島）

＜書道＞徳山高等学校（荒瀬）

＜写真＞小野田工業高等学校（元永）

・高文連事務局（中邑事務局長）

[協議事項]

開催要項、看板、出品目録、名票、賞状審査、講評、来賓、岩国地区の協力校生徒の動員、宣伝、次期主管校等

5、7月12日 全県各高等学校（盲・聾・養護学校の高等部を含む）へ開催要項を送付。

6、10月6日 オープニングセレモニーの案内状の発送。

7、10月20日 出品申込締切。

8、10月25日 審査及び講評の依頼。

9、11月1日 各報道機関の案内状を発送し、宣伝を依頼。

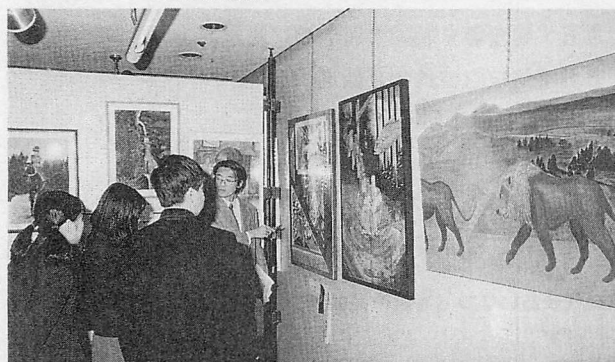
10、11月2日 教職員及び生徒の派遣依頼。

11、11月13日 第2回運営委員会 細案を決める。（オープニングセレモニー、動員・当番の再確認、搬入出・展示等）

12、11月24日 会場の設営。作品の搬入。作品展示。審査会、看板設置、最終打ち合わせ。



▲受付風景



▲展示風景



写真部門展示風景▶

13、11月25日 会期第1日目

オープニングセレモニー

11月26日 会期第2日目（最終日）

講評会、作品撤去、搬出、賞状渡し、返送作業。

14、1月30日 決算報告

○入場者数

11月25日 230名

11月26日 280名

総入場者数 510名

○出品総数 293点（美術・工芸136点、書道74点、写真83点）

○優秀作品 31点（美術・工芸14点、書道9点、写真8点）

そのうち下記が全国大会出品候補作品。

美術	熊毛南	2年	土網香代
	徳山	2年	延原安輝子
	山口	2年	森野浩子
	西京	2年	平田隆之
	萩	2年	乙丸奈緒

書道	防府	2年	友安聖子
	下関西	2年	角琴乃
	高水	2年	小畑恵美
	中村女子	2年	後根恵美香

写真	徳山	2年	富永泉紀
	小野田工	2年	武安つとむ
	夕	2年	田中智
	夕	2年	村岡寛文
	美祢工	2年	岡崎裕幸

反省・感想

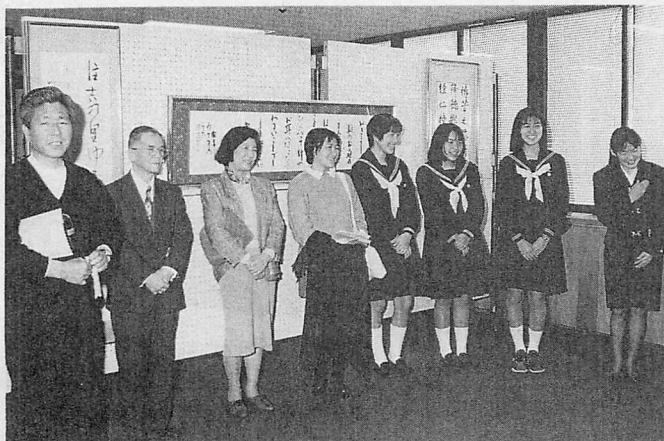
まず、会期について前年度の準備段階で県下の行事との兼ね合い、市民館の予約状況を勘案して、11月下旬、準備日と2日間の会期になりました。県下の各地区で催される本大会の準備としてまず会場の確保が大切になります。会場の広さと他の兼ね合いを考慮しなくてはなりません。

二日間の開催で入場者数はもう少し伸びを期待していましたが、各高等学校は、試験期間と重なり出品校の参加が鈍いのが残念でした。

審査方法については、昨年同様各展示部門で例年の要領で行いました。各部門とも名票はつけず投票等の方法で公正な審査となるよう考慮がなされました。各部門とも出品数の10分の1を優秀作品としました。写真では、浜本栄氏（二科会会友）に全審査を依頼しました。

講評会については、昨年度に引き続き最終日の午後に設定しました。熱心な講評に多くの生徒が参加していたのが印象的でありました。部門によっては、多少の予定時間オーバーもありましたが、その分中身の濃い講評会になったと思います。

準備から片付けまで各校の先生方と生徒の皆さんの協力を得て無事本年度の大会を終えられたことを深く感謝します。



▲書道部門講評会



▲展示部門会場
岩国市民会館

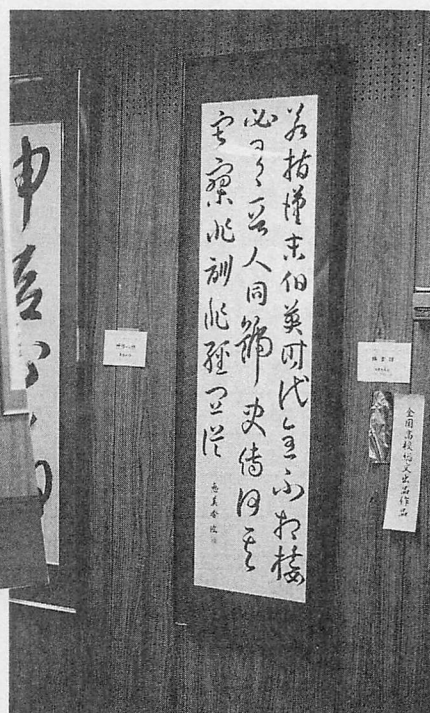
書道部門

会場：岩国市民会館

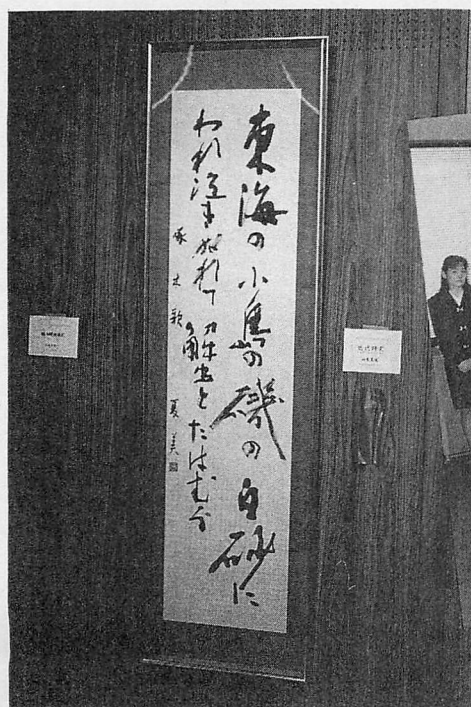


▲会場風景

▼優秀作品



▲全国大会出品候補作品



▲講評会

写真部門

会場：岩国市民会館

理事長 元 永 百合心
(小野田工業高等学校教諭)

今年度は岩陽高等学校の主管のもと、岩国市民会館で開催されました。18校82点の出品があり、校数では昨年度より5校増加しました。

審査員として二科会友浜本氏にご依頼し、下記の5点が第20回全国高校総文祭への候補作品となりました。審査では構図はもちろんのこと、基本中の基本であるピントの甘さ、スポッティング等、暗室技術の向上が望まれるところで、また、優秀賞が出来るだけ一校に偏らないようにお願いして審査していただきましたが、今年度も暗室技術の差を埋めるに至りませんでした。

(参加校)

岩国工業	柳井	田布施工業
熊毛北	下松工業	徳山
徳山	南陽工業	山口
西京	宇部	宇部西
小野田	小野田工業	美祢工業
下関西	下関商業	三田尻女子

(以上 18 校 82 点)

(第20回全国大会出品候補作品)

徳山	富永泉紀	沈黙の鼓動
小野田工業	武安つとむ	乱舞
"	田中 智	祭・さきがけ
"	村岡寛之	フィナーレ・龍
美祢工業	岡崎裕幸	虚像

(優秀賞)

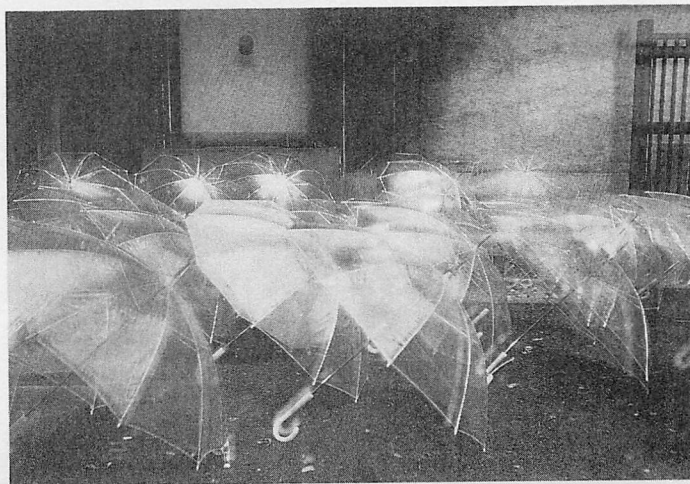
南陽工業	木村宗二郎	これ・風船?
美祢工業	安部顕彦	暑い.....

今年度は11月開催ということで、部員や顧問は非常に助かりました。密閉された部屋での焼

き付けは大変な作業となり、暗室内はゆうに40度を越えます。

平成8年度もまた11月に防府で開催されます。特に山防地区からの作品数に期待しています。

最後に、作品の展示並びに撤去に際し、多大なご尽力をいただいた岩国地区の先生方、生徒諸君に心よりお礼申し上げます。



囲碁部門

会場：小野田高等学校

理事長 塩谷敏彦
(小野田高等学校教諭)

平成7年度の囲碁部門第7回大会兼全国高文連第9回大会県予選は、平成7年10月29日(日)小野田高等学校会議室で、男子10校45名、女子3校5名計50名で、終日熱戦を繰り広げました。その成績は、

団体戦 (ハンデイー戦)

男子 優勝 宇部鴻城高等学校
準優勝 徳山高等学校
第3位 下関西高等学校

女子 優勝 徳山高等学校
個人代表決定戦 (互戦)

名人戦 優勝者

男子 縄田 五良 (下関西高等学校)

女子 今井由美子 (宇部女子高等学校)

団体選手決定戦 優秀者

男子 福永 直昭 (防府高等学校)

勝原 聡洋 (下関西高等学校)

女子 秋本瑞矢江 (下関南高等学校)

でした。なお、個人戦優勝の男子3名、女子2名は、平成8年8月9日、10日の北海道江別市で行われる全国大会に出場する予定です。

また、平成8年度の山口県高文連囲碁部門第8回大会、10月27日(日)小野田高等学校で行う予定にしています。囲碁部に所属していなくても自由に参加できますので、多くの参加を期待しています。



演劇部門

会場：岩国市民会館



▲「虹の花びら」(光高等学校)

10月28日(土)、29日(日)、岩国市民会館で開催しました。参加校は、岩陽高等学校・高森高等学校・光高等学校(以上、周防地区)、山口中央高等学校・西京高等学校(以下、山防地区)、宇部中央高等学校(以上、宇部地区)、下関南高等学校・下関商業高等学校(以上、下関地区)、の8校で昨年より1校ふえました。

予算不足で四苦八苦したのは、昨年と同じですが、今年は、運営の大半を現地実行委員会がひき受けてくれました。現地実行委員会の奮闘にあらためて感謝したいと思います。

昨年に続いて、講師兼審査員として篠崎光正先生(演出家・桐朋学園大学助教授)をお迎えしての県大会は、戦後50周年を記念する反戦劇で、平和を訴えるものや現在の大きな教育問題となっているいじめを取り上げた創作劇、場内を爆笑の渦に巻き込みながらぞっとするような人間の真実を鋭く問う演劇などバラエティに富んだものとなりました。

昨年に比べて粒ぞろい、参加作品それぞれが地区大会をはるかに凌ぐ力を発揮した充実した大会であったように思います。

▼中国大会へ出場権を獲得した
「ライフレッスン」(西京高等学校)

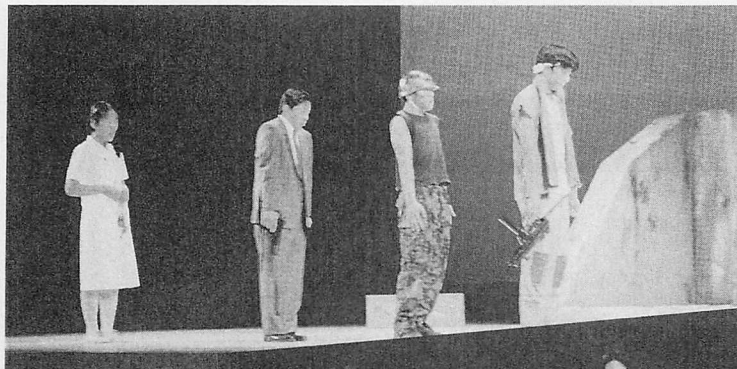


篠崎先生は、講評の中で、「ストーリーを追うだけでなく、観客が心はずませるような劇的展開が必要である。」として、

- (1) 絶えず変化している人間関係を固定化せず
演劇的なリズムとして捉えること
- (2) 人間関係を説明するのではなく、それを創造して演劇的にふくらませること
- (3) 舞台上で激しい動きをするのが演劇的であるのではなく、観客がリアルに感じるかどうか大事である
- (4) セリフは喋るのではなく、相手に渡すこと
セリフを受け取るためには、相手の言うことをよく聞くこと

などを実技をまじえながら話されました。

結果は、西京高等学校と下関南高等学校が中国大会への出場権を得ました。



◀ 「黒いゲーム」 (高森高等学校)



◀ 「Awkward Silence」
(下関商業高等学校)

▼ 「GRADUATION」 (山口中央高等学校)



▲ 「大人になれない子供たちのために」
(宇部中央高等学校)



◀ 「ISLAND」
(下関南高等学校)

▶ 「星に願いを」
(岩陽高等学校)



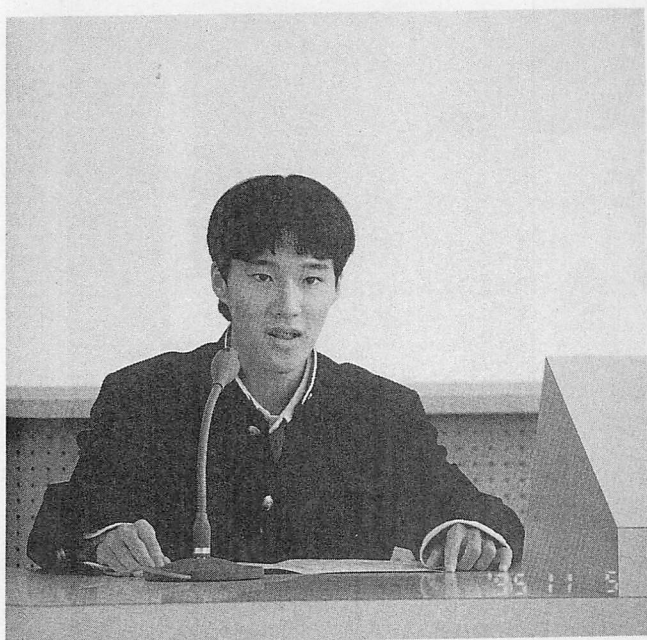
放送部門

会場：山口中央高等学校

理事長 青木幸子
(山口中央高等学校教諭)

平成7年度の第2回放送部大会は、11月5日山口中央高等学校でおこなわれました。昨年度にくらべ、参加人数も増え、なかでも、男子生徒の参加数の増加が目立ちました。

アナウンス部門においては、DJも顔負けと思



▲アナウンス風景

われるくらい、流暢な英語とポップなしゃべりで会場をわかせる生徒がいたり、朗読部門では、しっとりとした大人っぽい語り口でみんなをうならせる人がいたり、バラエティーに富んだ作品が多かったことが今年の特徴といえましょう。はじめて参加した学校の生徒達が、素材、構成、しゃべりの上手さなど、気がついた点を熱心にメモしている姿もみられました。



▲審査員講評

本年度の審査にあたられたK R Y山口放送局の国本アナウンサー、テレビ制作次長の城さんから「若者らしさ、パワフルなエネルギーを感じる作品が多かった」「素材えらびの工夫やしゃべり方の練習に努力のあとがみられた」という、講評をいただきました。

オーディオビクチャー部門においては、山口中央高等学校の作品「ザ・山口弁講座」がうけにうけて、会場は笑いのるつぽと化していました。

ビデオメッセージ部門の野田学園高等学校の作品「山口発・映画制作の夢」の上演にあたっては、5分間ずっと「オオー」「スゴイ」の声があがり「完」の字とともに「スゴイ」と一同ため息とも感動のうめき声ともわからぬ声全員が、高校生ビデオ一級品に接した感動でいっ

ばいのおももちでした。

大会の緊張もとけたところで、生徒交流会が開始。はじめての他校との交流ということで、マイクの前ではやや堅かった生徒にも、にこやかな笑顔を浮かべて、日頃の練習のこと、今困っていること、こんなことを教えて下さい、など活発な意見交換をおこなっていました。放送部動に携わる仲間として、いっしょにがんばっていきましょうーのムード盛り上がる中、次回春休みでの研究会における再会を約束をして、放送部大会の全日程を無事に終了することができたのです。



▲表彰風景



▲ビデオ・メッセージ部門

第19回全国高等学校総合文化祭の記録



第19回新潟大会テーマ

「燃えよ創造の炎 日本海を夢色に染めて」

参加校一覧(山口県高文連)

部 門	高 等 学 校	参加生徒	備 考(演奏曲目・作品等)
バレード	山口県鴻城女子	(40)	マーチングバンド部門に出演
	宇部女子三田尻女子	(30)	(2校合同出演)バントフリング部門に出演
合 唱	宇部中央	28	女声三部合唱「マザーグースの歌」より
吹 奏 楽	長 府	50	合奏「ジプシー男爵」「コバカパーナ」
器楽管弦楽	下 関 南	60	管弦楽合奏「ボレロ」
日本音楽	柳 井 学 園	10	箏曲「薫る花」
吟詠剣詩舞	聖 光	3	(2校合同出演)構成吟「原爆記念日感有り」
	中 村 女 子	3	
マーチングバンド	山口県鴻城女子	40	「Hands across the universe」
バントフリング	宇部女子三田尻女子	30	(2校合同出演)「回転木場」
美術・工芸	山下関商業	1	油彩 F40号「机の上の静物」 矢野容子(3)
	萩 工 業	1	油彩 F30号「静物」 大柿美佳(3)
	宇部中央	1	油彩 F50号「静物のある風景」 末益慶子(2)
	下関中央工業	1	S30 「EVERYTHING YOU KNOW IS WRONG」 後藤佳子(2)
	柳 井	1	B1 「微笑みのマリアへ…」 上野陽介(3)
書 道	下 関 西	1	臨「升色紙」 間山聡美(3)
	徳 山	1	全紙1/2「澄」 折戸公彦(3)
	香 川	1	全紙「万葉の歌一首」 山下由紀子(2)
	小野田工業	0	半切「王統詩」 山田弘二(2)
	柳 井	1	全紙「もがく」 宮本正明(3)
写 真	美 祢 工 業	3	全紙「愛犬もも」 吉田喜弘(2)
			組写真全紙「勝利への祈り」 吉村純一(3)
			組写真全紙「漁のあと」 岡崎裕幸(2)
開 碁	小野田工業	1	全紙「バナナのたたき売り」 石島三男(2)
	山 口	1	団体戦(女子1名) 江村晴子(3)
	徳 山	3	個人戦(男子1名) 野村幸生(3)
放 送	小 野 田	1	団体戦(男子1名) 池田和正(3)中原崇文(3)
			個人戦(女子1名) 松岡陽子(2)
	下 松	2	アナウンス「下松高ネットワーク」 温品由季(3)
	長 府	1	アナウンス「下松高ネットワーク」 栗山弘子(2)
	山 口 中 央	1	朗読「海峡」 高橋亜希子(3)
小 計	山 口 中 央	2	朗読「漂泊者のマリア」 原田博美(2)
	松 ヶ 丘	1	アナウンス「スポーツアワー」朗読「放浪記」 三川愛(3)小田村朋恵(3)
		1	オーディオビジュアル部門「風船爆弾」
合 計	24校(延べ32校)	250	ビデオレター部門「長縄念佛踊」
			総合開会式における県代表 山口県立下関西高校 間山 聡美(書道部門参加)

器楽・管弦楽部門

会場：新潟県上越文化会館

下関南高等学校

3年 森田 史子

“琴線響感”に燃えた夏、幸運にも私たち下関南高等学校管弦楽部は第12回の熊本大会以来7年ぶりに新潟県で開催された第19回全国高等学校総合文化祭に県代表として参加・出演しました。

演奏曲目は前回好評であったラヴェルのボレロです。この曲は私たちにとって聴き馴染みのものでしたが、CDでしか聴くことのなかった曲を初心者が多い私たちで出来るだろうか、と大変不安でした。3年生にとっては受験を控えた最後の夏であり、いろいろと忙しい中ではありましたが、春以来みんなコツコツと練習に励みました。

出発当日。好天に恵まれ総勢90名は修学旅行気分で行きました。時間の節約と経費的な面

から往路は飛行機を利用しました。部員の中には飛行機は初体験という者もあり、怖さも半分、窓の外の不思議な景色をじっと見ていました。着いた富山空港からバスに乗り継ぎ、練習場として借りた妙高高原の体育館に到着したのは夕方遅く6時をまわっていました。先に着いた楽器を点検したところ、遠く下関からトラックに揺られての長旅で愛器も疲れたらしく、様々なトラブルが発生していました。特にデリケートな弦楽器やわが校自慢のハーブの調整、修理には、皆気を使っていました。

翌朝、旅館から演奏会場のある上越市へバスで向かいました。会場は素晴らしく、このような舞台で演奏出来ることを嬉しく思いながらも他校の演奏を聴き、そのレベルの高さに驚かされました。

いよいよ私たちの出番になりました。プロ顔



▲下関南高等学校管弦楽

負けのステージ衣装に着替え、チューニング室に入りました。ソロを担当する人達はさすがに緊張しているらしく最後まで念入りに音合わせをしていました。舞台裏では円陣を組んでお互いに励まし合ったり、ソロの人達を勇気づけたりして本番を待ちました。舞台に上がると、何故か落ち着いた気分になり、先生の指揮棒だけを見ていました。

私はトロンボーンの出番までの長い何十小節間、自分が何を考えていたのかいまだに思い出せません（練習の時、この長い休みがとても退屈でよく出遅れることがありました）。でも気づいたらもう自分の吹くところになっていました。盛り上がった最後のフォルテシモを吹き終った瞬間、残響だけが聴こえ、楽器を持つ私に手は震えていました。先生が大きくなずき指揮棒を降ろすと、一瞬の沈黙の後、客席から

の拍手の嵐。私はこの時、“感動”というものはこの瞬間のことなのだと思います。演奏が終った後もいろいろな方々に温かいお褒めの言葉をいただき、皆大きな喜びと安堵感で心が満たされました。

大役を果たし終えたからか、気分が解放され、旅館に着いてからは皆でハシャギまわり、それはそれは楽しい一夜を過ごしました。翌日の朝、バス、新幹線を乗り継ぎ一人の故障者もなく全員無事に下関に帰って来た時は、わずか3日間だけだったのに随分長い旅をしたような気持ちになりました。

私たちはこの後、青少年ピースコンサートや“第九”の演奏会が控えており3年生にとっては本当に大変な夏となりましたが、この全総文への参加は貴重な体験であり素晴らしい思い出となりました。

第19回全国高総文祭の記録

合唱部門

会場：六日町文化会館

山口県立宇部中央高等学校

3年 福重 幸枝



冬にはスキー場になるらしい、山口県ではめずらしい山はだを左右に見ながら、汗をふきふきやっと小さな駅「六日町」に到着しました。宇部を出発してから約8時間の道のりでした。初めての土地、全国大会という大きな大会にみんな期待と緊張感をもってはるばるやってきました。

8月1日には全国高校総体ソフトボールが宇部で開催され開会式に出場したり、8月下旬から9月にかけての2つのコンクールなど行事が多く、大変忙しくひととき暑い夏を迎えていましたが、大きな目標に向かって内容が濃い充実した練習を積み、県の代表として恥ずかしくない演奏をしようと頑張ってきました。曲目もフェスティバルということを念頭に、明るく楽

しいものをと「マザーグース」の中から3曲選びました。ちょっとした振りつけや演出も工夫し、講評の先生から「楽しかった」との言葉を頂きました。全国レベルのすばらしい演奏や地域性を生かしたものもあり、感動し楽しみました。この大会に出場し全国の高校生と合唱を通じて交流できたことや、六日町の人達の温かい歓迎を受けたこと、私達の部がいつそう団結できたことなどたくさんの思い出をつくることができました。

この貴重な体験をさせて下さった多くの方々に深く感謝するとともにこれらを良き思い出として心に深く刻み、これからも合唱を通じて豊かな心を持ち続けていきたいと思っています。

第19回全国高総文祭の記録

吹奏楽部門

会場：六日町文化会館

長府高等学校吹奏楽部

3年 百合野美沢

▼長府高等学校吹奏楽部



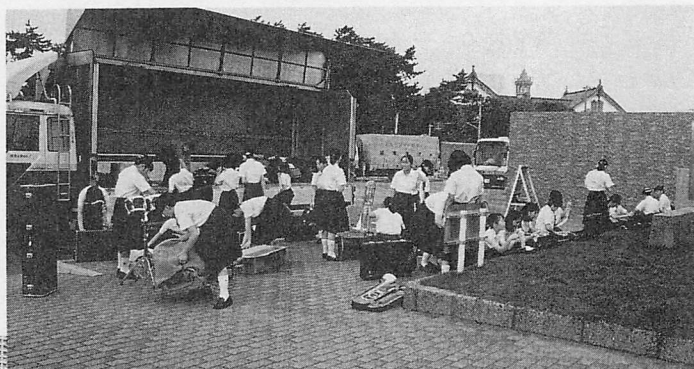
先生から「全総文に出場できることになった。」と聞かされた時、私達は大きな喜びと同時に不安を隠しきれませんでした。私達の部は、今年度で創部5年目。昨年度には中国大会に初出場することができ、やっと音楽の楽しさを部員全員が共感できるようになり始めていました。しかしまだ、自分達の演奏に自信がなく、全国の舞台で山口県代表としての責任を果たせるか不安だったのです。

夏には、吹奏楽部にとって1年間の活動の目標とも言えるコンクールがあります。また今年は、全総文出場の記念として、新潟に向かう前日に演奏会も開くことになりました。夏が近づくにつれて、ハードなスケジュールの中、私達は休む間も惜しんで練習を重ねました。しかし、すべてが中途半端になるのではないかという不安は、日々つのっていきました。

そんな不安を抱えながら時間は過ぎ、いよいよ前日の演奏会。たくさんの方々の御支援のお陰で、何とか無事に終えることができ、ほっとしました。次の日は、早朝から新幹線に乗り込み新潟へと向かいました。夕方には交流会に参加し、それぞれの地方の独特な方言が、とても新鮮だったことを覚えています。日本全国から集まった会場いっぱいの同世代の仲間の中に、自分達も仲間入りできたことが妙にうれしかったです。各楽器に分かれているため共感できることが多く会話ははずみました。現在でもその時に会った仲間と文通している部員もいます。

本番当日、出番まで会場で他校の演奏を聴き、迫力のある演奏、繊細な音色に、改めて全国のレベルの高さを実感しました。本番では今年の吹奏楽コンクールでの自由曲であった「ジプシー男爵」とポップスの曲から「スパイ大作戦のテーマ」を演奏しました。山口県代表としては、まだ未熟な面も多かったのですが、あの時の私達の精一杯が演奏に出せたと思っています。ただ、もう少しポップスの方では、スタンダードプレーなど演出にも工夫するべきだったという後悔もあります。

全国の仲間や演奏、音色を自分自身で直接感じることができる機会は、めったにありません。そのような中で、この大会に参加できるというチャンスをいただけたことに本当に感謝しています。3年生の私にとって、高校生活の最後の夏に素晴らしい思い出を残すことができ、また今後の長府高等学校にとっても、良い経験となり刺激となりました。この全総文での経験を生かし、後輩達には、さらに自分達の演奏をみがいて頑張ってもらいたいと思います。



◀ 長府高等学校



マーチングバンド・バトントワリング部門

会場：長岡市市民体育館大アリーナ

理事長 花村 慈 照
(宇部女子高等学校教諭)

今年度の全国高等学校総合文化祭（新潟大会）はマーチングバンドに山口県鴻城高等学校の生徒40名が参加し、バトントワリングには山口県合同チームとして、宇部女子高等学校、三田尻女子高等学校の2校33名が参加しました。日程は8月4日（金）10:00～12:00の間新潟市大畑公園～古町通5番町でパレードが行なわれ、山口県鴻城高等学校のプラスバンドの演奏で三田尻女子高等学校、宇部女子高等学校の合同チームでバトンの演技を行いました。8月6日（日）9:30～16:20長岡市市民体育館大アリーナでマーチングバンド・バトントワリング部門の発表会があり、7番目に山口県鴻城高等学校のマーチングバンドが出場し、軽快なリズムに乗ってドリルが展開し素晴らしい演奏演技に大きな拍手を受けました。また15番目に山口県合同チームのバトントワリング、宇部女子高等学校と三田尻女子高等学校の33名が出場しました。十分な合同練習が出来ず心配しましたが立派な評価を受けることが出来ました。

全国総合文化祭出場

山口県鴻城高等学校吹奏楽部

部長 室重真樹子

前年度、マーチングコンクール山口県大会に初出場し、グットサウンド賞受賞、中国大会出場とすばらしいスタートを切った本校吹奏楽部は、全国総合文化祭に出場させていただき部員一同喜んでいました。総合文化祭にむけて、少しでも良いものを作ろうと練習時間や場所のない所で一丸となり、目標に向かって頑張りました。



◀パレード風景（山口県鴻城高等学校）

全国総合文化祭では、レベルの高いバンドがたくさん出場していて、いろいろな面で刺激になり、私達にとって次につながる良い目標ができました。そして今年もマーチングコンクール中国大会出場という成績をとることができました。これも指導して下さった先生方、応援して下さいましたOBの方、父母の方々のおかげです。私達3年生は引退しますが、来年も目標に向かって頑張りたいと思います。

大会をオレンジ三色に染めて

三田尻女子高等学校バトン部
市川夏

白波の立つ日本海や緑深い山々が、真夏の澄みわたる空によく似合う、新潟はそんな美しい町でした。この地で行われた全国総合文化祭は私が、高校3年間バトンにかけてきた青春のクライマックスとして、今なお鮮やかによみがえってきます。入念なりハーサルの後、いよいよ会場の扉の前へ……。のどもとまで詰まってきた心臓がバクバクとその鼓動を高めた時、目の前の扉が開きました。静まりかえったフロアに痛いほどの視線をうけて、私達は演じます。大胆にかつ華やかに、熱い感動を生むために、一人ひとりが精一杯身体で表現していきます。緊張の糸は時にいたずらにからまって、突然のアクシデント発生『大丈夫、大丈夫』と笑顔で答え、何とか無事に演技を終了しました。その瞬間に湧き起こった耳を突く歓声、拍手の音、

会場の皆さんの暖かいまなざし……今も胸の奥にやきついて、消えることはありません。すばらしい感動が私の心を満たしました。この大会に参加して他県の高校生ともさまざまな笑顔の交流を深めることができました。大会に参加できましたのも、指導して下さった先生方をはじめ、陰に日なたにフォローしてくれた保護者、OBの皆様、そして厳しい練習に耐え、支えあってきた仲間達のおかげです。心から感謝します。

3年最後の全総文

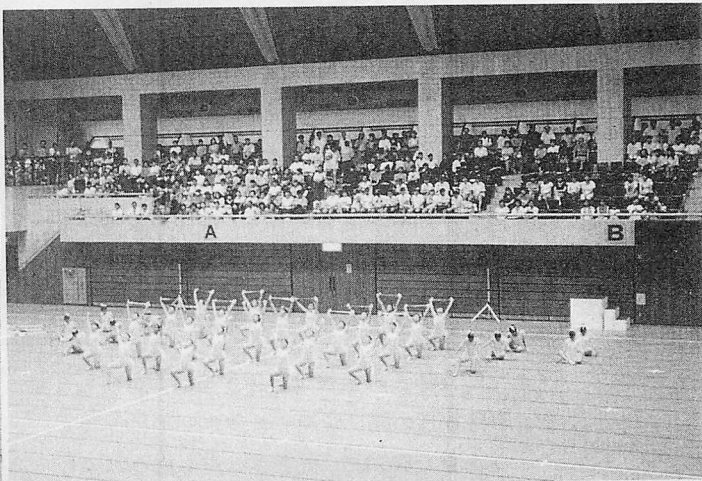
宇部女子高等学校バトン部

今年の全総文は、新潟県の長岡市で行われました。新潟県はお米が有名でイメージキャラクターの『みのりちゃん』としても使われていました。8月4日は新潟市内でパレードが行われ、5日は一日練習、6日は演技本番というハードスケジュールでした。演技は2校合同で練習も不十分でしたが、皆で協力し、チームが一つになりいよいよ演技となりました。会場では多数の方々が見ていてとても緊張しました。私達3年にとって最後の総文の演技となるので悔いの残らないよう一生懸命に演技をしました。演技が終ると会場からは沢山の拍手が起こり初めての全総文以上の感動を味わいました。私達3年生にとっては思い出の深い5日間の旅となりました。

▼三田尻女子、宇部女子高等学校の合同チーム

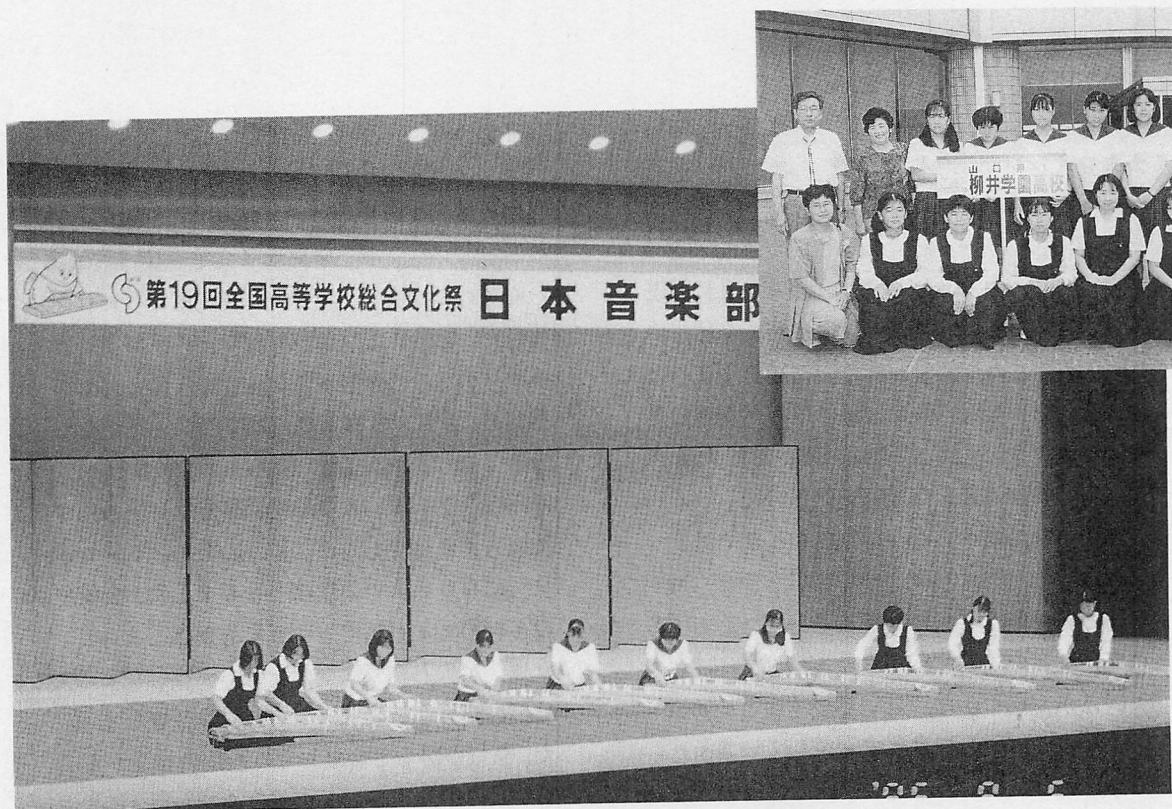


▲山口県鴻城高等学校



日本音楽部門

会場：新潟テルサホール



▲柳井学園高等学校

柳井学園高等学校

高橋 幸枝

私が日本の伝統の琴に初めて触れたのは、高校に入ってからでした。今まで一度も見た事なければ、聞いた事もない琴は私にとって最初は、難しくて上手に弾けない事で大変という印象が一番強かったと思います。しかし、だんだんと練習を重ねるうちに琴というものが楽しくなっていました。全国で演奏する曲が決まってからは、部員全員と一生懸命、何回も練習を重ねていきました。

とうとう練習の成果を発揮する時がきました。8月6日の朝、新潟テルサホールに行きステージを見た瞬間に、大きさに声も出ないぐら

いに驚きました。開会式が終わり、調絃や練習もすぐに終わり、徐々に私たちの出番が近づいてきました。ステージの横で、他の学校の演奏を聞いているとさすが素晴らしい演奏です。自分達も立派に演奏しよう。でもあんなに上手にはとても演奏できないという気持ちが入り混じり私の緊張感を高めました。演奏の時は、緊張で手がふるえ大変でした。会場で聴いておられた校長先生や御指導下さった増本先生、顧問の先生に「今までで一番よかったよ。」とっていただいた時、一生懸命練習してきてよかったとしみじみ思いました。

これを機に、私は日本の伝統音楽の琴をずっと続けていきたいと思っています。

吟詠剣詩舞部門

会場：燕市民会館

▼ 山口県合同チーム（聖光、中村女子高等学校）



全国大会に出場して

聖光高等学校

3年 原 千秋

8月6日。電車を乗り換え、乗り換え、新潟にやってきました。窓からの景色は広大な田んぼ。山口では見ることのできない、広い平野を目のあたりにして「ああ、新潟にやってきたのだなあ」と実感しました。

本大会の会場は燕市民会館です。リハーサルでは、誰一人緊張しませんでした。8月7日の本番の日、会場に入るや否や「すごい！」という感嘆と緊張が襲ってきました。出番まであと数校という頃から、段々と、心臓の音が「ドック、ドック」と大きく打ち始めたことを今でもおぼえています。

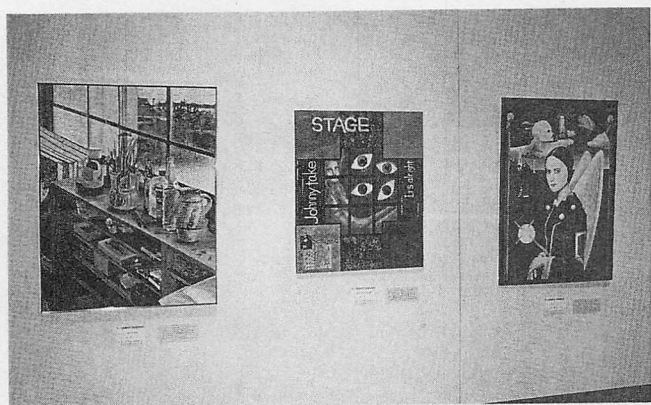
私達は昨年同様、中村女子高等学校との合同チームで構成吟を発表しました。今年の発表は「原爆記念日 感有り」でした。スライドを映写し、バックミュージックを流して、戦争の悲惨さを吟で訴えました。私はナレーターと、最後

の合吟を力一杯やりました。ナレーターは、おぼえるのが大変でした。しかし練習を重ねるうちに段々と自信がついていくのがわかりました。唯、読むだけではなく気持ちをこめて読むこと。これを細かく指導して下さいた顧問の藤井先生や多くの先生方にとっても感謝しています。本番では、音楽とぴったり合えばよいがという不安もありましたが、吟じる人に助けられて、自分の満足のいく発表をすることができました。発表が終わると静まり返った会場から盛大な拍手がおこり、平和を願う私たちの心がしっかりと受けとめられたことを感じ、大変嬉しく又ほっとしました。

後日 読売新聞の全国版に、私達の発表の記事が載りましたが、私達の気持ちが多くの若者に共感していただけた証だと思い、今でも嬉しく思います。全国大会に出させていただき、満足がいく発表ができたのも沢山の皆様のおかげです。高校時代のいい思い出を、本当に有難うございました。

美術・工芸部門

会場：新潟県立近代美術館



▲山口県出品作品



全国高等学校総合文化祭の参加して

山口県立萩工業高等学校建築科

2年 末益 慶子

いろいろな苦労があつての出品となったわけだが、とにかく参加できてよかった。たくさん
の人の作品を見てとても良い勉強になった。特にこれだというものはないが「ハイブ長岡」であつた海外の作品には日本にはないものがあつて、良い刺激となつた。

展示では大きな作品が目立っていたが、私は50号というスペースをもてあましたような気がする。もう一回り小さいサイズでも良かったかと思う。それに、作品によってはキャンバスを縦や横にすることで、絵に広がりや、奥行きが出てくるので、40号以上の作品でもそのあたりが自由になればなあと思った。

全国高等学校総合文化祭に参加できて、とてもよい思い出ができた。近代的な美術館に一つの芸術作品として展示されたことを、私はとても誇りに思った。これからも是非、のびのびと絵をかいていきたいものである。

下関中央工業高等学校

3年 上野 陽介

ボクはいつも「最良の経験と最高の感動は自分を変えるキッカケになる」と信じている。今回も出かける時には、何かいい経験が出来ればいいなあと思っていた。会場に入ると、もうたくさんの人たちで賑わっていた。パーティーは嫌いなので、はやく、みんなの作品が見たかった。

全国の作品のレベルはすごかった。規模も大きくてすごくうらやましい面もあった。学校によっては彫刻もあった。今まで見たこともないような物で作ってあつた。

なんだかプロやセミプロの作品展なんかよりずっとのびのびと作っている感じで安心した。この最良の経験と最高の感動を次の作品に生かしたいなと思った。

写真部門

会場：新潟県民会館ギャラリー

小野田工業高等学校

2年 石島 三男

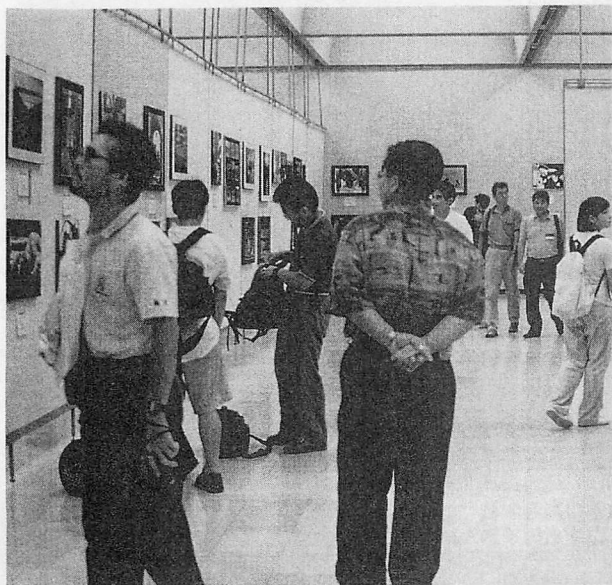
新潟で開かれた第19回全国総合高校文化祭に、山口県の代表として参加させていただきました。8月5日の撮影会では、水害のために会場が変更になるということを当日の朝知りました。いったいどうなるのだろうかと心配だったのですが、午前中は豊栄市の定期市場・午後は豪農の館（北方文化博物館）での撮影会が実施されました。大勢の人が行き交い買い物をする市場は雰囲気楽しく、豪農の館でも被写体に恵まれ、移動のバス内でも他県の高校生と話したりして、結構楽しく過ごすことが出来ました。

展示会場には撮影会の直後に行ったのですが、さすがに全国から選ばれた作品の展示だけに、いろいろと勉強のなることが多かったように思います。一見身近な学校生活も、とらえ方によってはいい被写体になるものです。構図や

焼きについて、作品の前で話しあっている高校生もいて、その熱心さは圧倒されました。引続いて写真評論家の飯沢耕太郎先生の講演もあり、写真作品とそこに込められた意味とか思いについて、いい勉強をさせてもらったと思います。

翌日は、午前中には講評会があり、全国奨励賞受賞作品と候補作品について、ていねいな講評が行われ、午後からは交流会に出させてもらいました。前日の撮影会での作品を互いに見せ合い持ち寄った写真を交換したりして、他の県の写真仲間も出来ました。

全国大会に参加することによって、全国の優れた作品を見ることができ、また日頃はできないさまざまな貴重な体験をすることが出来ました。この大会で得た感動や知識を、これからも大切にして僕の生活の中で役立てて行きたいと思っています。



書道部門

会場：新潟市美術館

理事長 荒瀬 宏
(徳山高等学校教諭)

徳山高等学校
3年 折戸公彦

8月4日～8日、全総分が新潟県で開催され、僕は書道部門に参加しました。

僕は恥ずかしながら代表作品に選ばれるまで高文連の存在を知りませんでした。その上、習字をならった事がある程度で、実は出品するのは初めてでした。初めて書いた作品が入賞してしまったものですから、かなり舞い上がってしまいました。その状態のまま大会に参加したものですからショックの受け方も桁外れでした。スケールの大きさとレベルの高さ。もう少しで自信喪失に陥るところでした。

交流会で他の高校の部活動の状況などを聞いていると頭が下がりました。全国にはすごい人達がいるものだなと思うと同時に、自分も負けては行けないという気持ちになりました。その会場は他県の人々と話をしやすい環境が作られていたので、友達もでき楽しい時間をすごしました。

楽しく、そしてためになる文化祭でした。

経験と様々な想い

3年 問山聡美

新潟について二日目、私は書道作品を展示している美術館へ行きました。数々の作品の中で心に残ったものは、私の書道に対するイメージにとって型破りな作品でした。例えば詩人ランポーの詩を横書きに力強く書いたものなどです。それらを見て自分も色々なパターンの書道に挑戦してみたいと思いました。

また、総合開会式では、会場の外でアメリカ

人の女の子と言葉を交しました。ほんのわずかであったにもかかわらず、今でも鮮明に覚えています。生きた英語に触れることができたうれしさの反面、ごく簡単なことも落ちついてしゃべれなかったということを少し悔やんでいます。

全国高校総合文化祭に参加したことによって、日常を離れた貴重な経験をすることができました。それは今後の自分にとってプラスの要素として残っているように思います。良い思い出になりました。

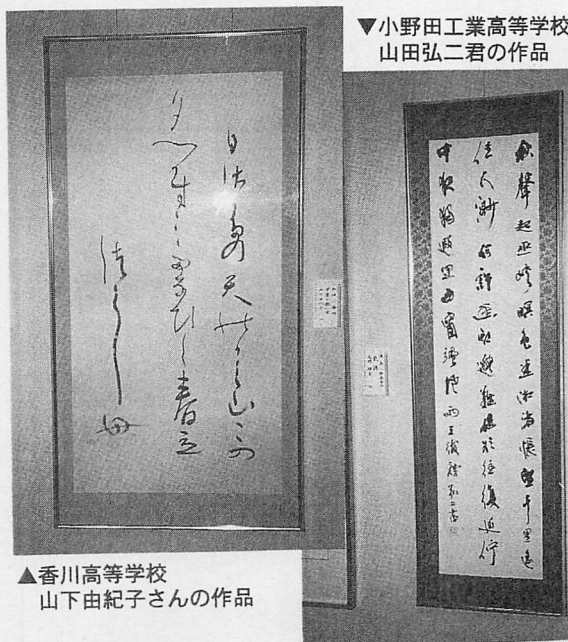
全国大会に参加して

香川高等学校

2年 山下 由紀子

去年の夏、山口県内で運良く全国大会への参加を認められ、今年「全国高等総合文化祭書道

▼小野田工業高等学校
山田弘二君の作品



▲香川高等学校
山下由紀子さんの作品

の部」の行われた新潟市に行ってきました。展示会場では、一つ一つの作品に大変驚きました。それは自分と同じ高校生が書いたとは思えないほど大胆で、また様々な書法で書かれていたからです。そんな人達との交流会に出席するという事で、新潟に行って初めて緊張しました。しかし会場にいた新潟の高校生と話してみると、

とても親切ですぐに仲良くなれました。これはこの大会での一番大きな思い出でもあります。

新潟では他にも歌人や書家としても有名な「会津八一」の記念館を見学し、大変勉強になりました。新潟での2日間は、充実し意義のあるものだったと思います。この経験を活かし、今後も頑張っていこうと思います。

第19回全国高総文祭の記録

囲碁部門

会場：新潟市万代市民会館

理事長 塩谷敏彦
(小野田高等学校教諭)

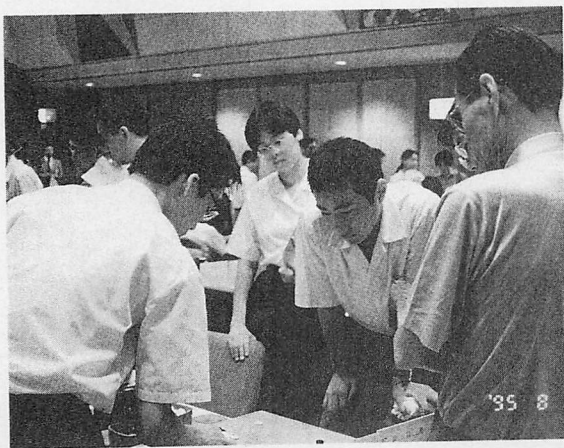


第19回全国高等学校総合文化祭囲碁部門第8回大会は、平成7年8月6日、7日の両日新潟市万代市民会館で37都道府県より137名の代表が参加して開催されました。山口県からは、個人戦に野村幸夫君(徳山高等学校)・松岡陽子さん(小野田高等学校)、団体戦に池田和正君(徳

山高等学校)・中原崇文君(徳山高等学校)・江村晴子さん(山口高等学校)の5名が参加し、碁を通して全国の参加者と交流を深めました。生活環境は異なっている、対局を通してお互いを理解することができる碁の魅力を生徒は感じることができたと思います。

大会での成績は、

個人戦	野村幸夫	4勝2敗	8位
	松岡陽子	2勝4敗	24位
団体戦		1勝5敗	29位



と前回は上回ることはできませんでした。しかし、惜敗の対局が多く、生徒は一局の碁を勝ち切ることの難しさを身にしみて感じとっていったのではないかと思います。一局の碁を勝ち切る棋力を身につける、このことが来年度に向けた課題ではないかと思います。

また、交流会において、松岡陽子さんはプロ棋士との指導碁を打ってもらいよい経験をしたのではないかと思います。この経験を今後に生かしてもらえればと思います。

最後に、大会を通して新潟県の関係者、補助員としての生徒諸君の対応には心より感謝いたします。参加生徒が大局の対局を戦うことができたのは、これら関係者の誠意の賜物であると思います。

第19回全国高総文祭の記録

放送部門

会場：弥彦総合文化会館

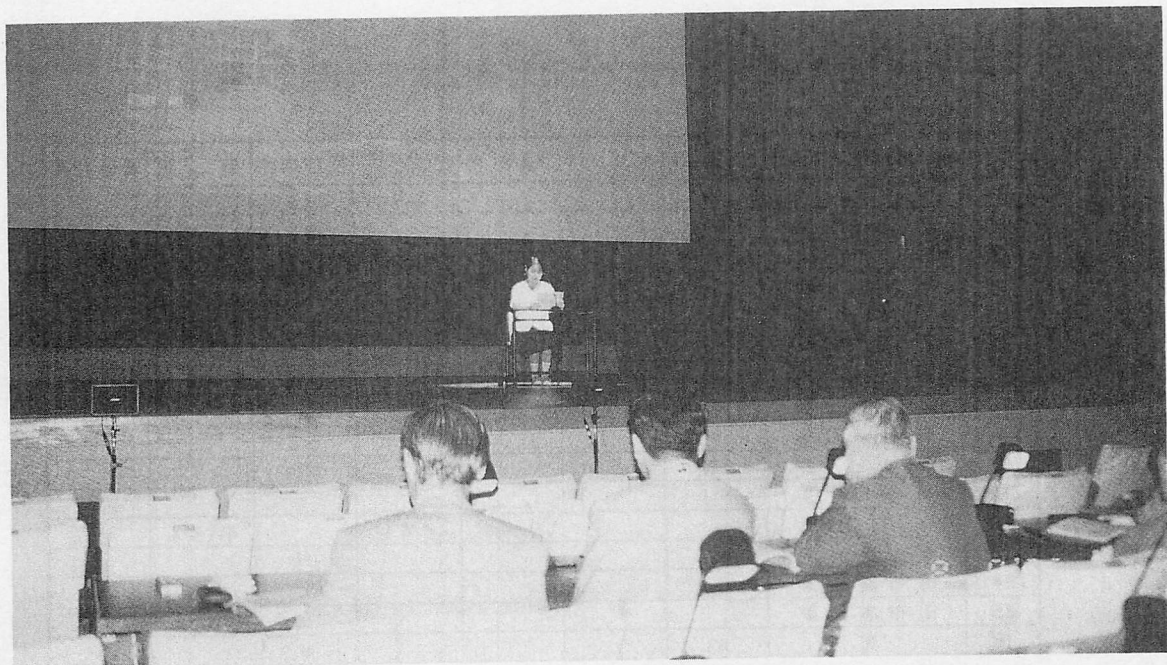
山口中央高等学校

3年 二川 愛

「やっと、ついたあ」弥彦村のい案版をみた時、みんなの口からもれたのは、この言葉でした。朝一番の飛行機に乗って上京し、(はじめて、という人ばかりで、空の上でみんな舞い上がっていました)、次に、東京から新潟まで新幹線にのって、そのあと、弥彦まで、日本海の夕陽ラインとやらを走り、やっとの思いでとどついた弥彦村でした。放送のコンテストといえば、東京と相場が決まっていただけに、全国大会で新潟県しかも佐渡の対岸、弥彦村にすることができた私達は本当に幸せ者だと、一同しみじみ感動しました。今回はアナウンス朗読に加

えて、ラジオ番組の作品とスライドをドッキングさせる、オーディオピクチャーという、はじめての経験にトライするにあたり、みんな、いつになく、緊張のおももちでした。

顔見知りの他校の人(山口県代表)に会うと「キャー元気」などと、異国で友に会ったような盛り上がりを見せて、他県の人に不思議そうにみつめられてしまいました。ホールにはいり、さっそくリハーサルにはいったのですが、さっすが全国代表!というような、ねりにねった力作がそろっていて、ちょっと圧倒されてしまいました。が、我が校のもってきた「風船爆弾」のリハーサルがはじまると、どこからともなく多くの人々が集まってきて、「すごいねー、



さすがよねー」などという声がきこえ、一同照れまくって、舞い上がって、スライドチェンジを誤ったりして、あとで深く反省しました。先輩の日記（寺田シゲ子さん）をもとに、多くの人々に取材を重ねてつくった作品だけに、これが、全国の高校生の文化祭で上演できることを、しみじみと、ありがたく思いました。私、個人としては、山口県を題材にしたアナウンス原稿づくりに、迷わず「炎のストッパー津田恒美投手」を選びました。津田投手のひたむきな生き方、そして、粘り強く努力する姿勢、そして、インタビューに答える時のあの独特の山口弁が、私の心をとらえて離さなかったくらいです。彼が亡くなって、数年になりますが、くじけそうになったり、落ち込んだりすると、決まって、津田投手のことを思い出の私の心の中に、彼は生きつづけているのです。全国の高校生の中にも、津田投手のファンがたくさんいて、私のアナウンスのあと、「私もファンだったのよ」などと、話かけてくれました。

震災におそわれた神戸からやってきた高校生のメッセージは、とりわけ私達の心を強くうちました。「がんばろうや」とお互いを励ましあい、前向きに一生懸命生きている仲間の姿に一同涙してしまいました。私達にできることはな

いだろうか、そのアナウンスのあと、みんな、いろいろ話し合いました。

他のコンテスト、コンクールとちがって、どのジャンルの発表にも郷土色が感じられること



が、とてもすばらしいことだと思いました。自分のまわりのことを知っていくということは、自分のふるさとのあたたかな気持ちを育てていくことになるんだ……などということも感じました。新幹線の都合で、審査発表、講評を聞くことなくバタバタと弥彦を後にしました。私達に、それから1週間後、ダブル受賞おめでとう、のメッセージが届き感謝の思いで一杯です。

山口県高等学校文化連盟自主事業実施校一覧

番号	学 校 / 事 業	ピ ア ノ	マリンバ	フルート	尺八と箏 オベレッタ	交響楽団	演 劇	金管合奏
1	安 下 庄	63			平7	平4		
2	久 賀	63				平3		
3	岩 国							平1
4	岩 陽							平1
5	岩 国 商 業			平3			62	
6	岩 国 工 業					平2	平6 ※	
7	坂 上			63		平5	平3	
8	広 瀬			63				
9	高 森					平2		
10	柳 井					平7		
11	柳 井 商 業							
12	柳 井 工 業						平1平4	
13	熊 毛 南	63				平6		
14	田 布 施 農 業					平3	平5	
15	田 布 施 工 業							
16	光	63				※		
17	光 丘					※		
18	熊 毛 北					平2	63平7	
19	下 松				平7			
20	華 陵					※	平1	
21	下 松 工 業	63				平1		
22	徳 山		定平4		定※			
23	徳 山 北		63			平4	※	
24	徳 山 商 業		平5	63			平3	
25	徳 山 工 業						平4平7	平1
26	鹿 野		平3				平1	
27	新 南 陽	63					平5	
28	南 陽 工 業		平1			62		
29	佐 波			63	平7			
30	防 府							
31	防 府 西							平1
32	防 府 商 業		定63				平6	平1
33	山 口		定62			平2		
34	山 口 中 央	63						
35	西 京	62				平4	平7	
36	山 口 農 業					平5	平3	
37	宇 部	63						
38	宇 部 中 央		定平1				63	
39	宇 部 西							
40	宇 部 商 業			63		62平6	平3	
41	宇 部 工 業			平2		※		
42	小 野 田		定63					
43	小 野 田 工 業		定63				平4	
44	厚 狭			平1				
45	美 祢					平4	平2	
46	大 嶺						63	
47	美 祢 工 業					63		

ピアノ ——— 弘中 孝
マリンバ ——— 水野与旨久
フルート ——— 西田直孝トリオ

交響楽団 ——— 山口交響楽団
尺八と箏 ——— 中村 明一、八木美知依
オベレッタ ——— 木月 京子

番号	学 校 / 事 業	ピ ア ノ	マリンバ	フルート	尺八と箏 オペレッタ	交響楽団	演 劇	金管合奏
48	田 部					平1		
49	西 市					63		
50	豊 浦							
51	長 府							平1
52	下 関 西							
53	下 関 南							
54	下 関 第 一						平5	
55	下関中央工業						平6	
56	下 関 工 業	62					平2	
57	響		平5			平1		
58	豊 北	62				平3		
59	日 置 農 業	63	平5				平2	
60	大 津	63					平5	
61	水 産							
62	萩	63				平3	平6	
63	萩 商 業	63				平7	平2	
64	萩 工 業					平6	平4	
65	徳 佐			分 63		63		
66	奈 古					平1		
67	盲	63	平3		※	平7	平1	
68	聾							
69	岩 国 養 護		平3					
70	田 布 施 養 護		平6			62		
71	徳 山 養 護			平1				
72	防 府 養 護	62	平3	63				
73	宇 部 養 護		63平5			平1		
74	下 関 養 護		平2平6					
75	萩 養 護		平6					
76	下 関 商 業							
77	高 水						62	
78	柳 井 学 園		平6				63	
79	聖 光					平2		
80	山口県桜ヶ丘							
81	三田尻女子						平7	
82	多々良学 園							
83	中 村 女 子	63				平2平5		
84	野 田 学 園	63						
85	山口県鴻城							
86	宇 部 鴻 城					平7		
87	宇 部 女 子							
88	美 祢 中 央							
89	香 川					平1平5		
90	サ ビ エ ル							
91	早 朝							
92	下関女子短期大学附属	62 63	平4		平7		※	
93	長 門					平6		
94	萩 光 塩 学 園							

演劇 ———— のんた・宇部芸術座・海峡座 ※印 ———— 平成8年度実施予定
 金管合奏 ———— 東京金管五重奏団
 62～平7 ———— 実施年度

《自主事業》山口県交響楽団演奏会

演奏会を聞いて

柳井高等学校 2年

福山 美穂

先日の演奏会では、とても充実した、良い時間が過ごせたと思います。

まず、第一音を聴いた瞬間に、思わず小さい声を発してしまいました。というのも、私をはじめに想像していたよりも、とてもまとまった音が出ていたからです。私は吹奏楽部に所属していて、校内では音楽部と一緒に『オーケストラ』をしていたつもりでしたが、本物は全く違うということを痛感させられてしまう一瞬でした。それに加えて、一種の感動というか、尊敬の念を思いおこされた気がして、良い経験だったと思います。

柳井高等学校でも、演奏会を行うことが年に二回ほど（ちなみに、今回の演奏会の四日後に熊本南高等学校と合同でチャリティーコンサートを開きました。）あるのですが、会の進行の仕方など、本当に無理がなく、すんなり受け入れられ、是非参考にしてみたいと思う程でした。

もちろん、演奏の方もとても素晴らしく、改めて音楽というものの素晴らしさを知ることができました。やはり、CDなどよりも、皆様県内トッ

プクラスの演奏家だけあって、音の『まとまり』を感じられました。そのお陰で、私達も音楽と一体になれたような気がします。

今回演奏された曲は、ほとんど私の知っているものでしたが、つくづく生で聴くものは一味も二味も違うな、と思いました。機会があれば、また、生のものを聴いてみたいと思います。

今回は、いろいろと沢山のことを学べて良かったです。今まで、オーケストラなどには興味がなかった人も、楽しめたことだと思います。素晴らしい演奏をありがとうございました。



演奏会を通して教わったこと

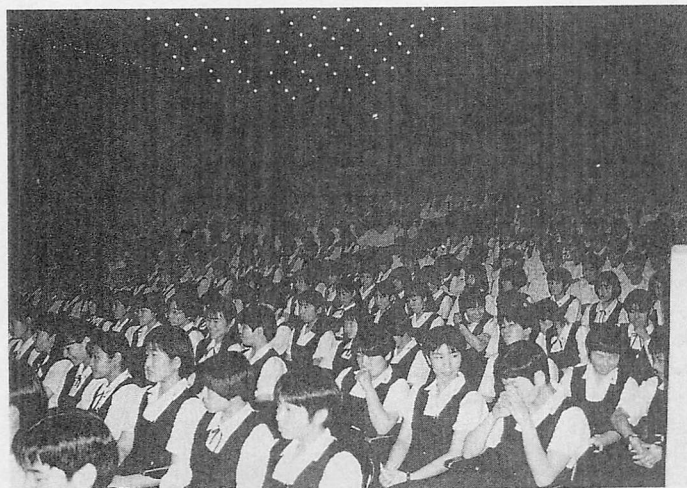
柳井高等学校 2年

小林淑乃

この前は、素晴らしい演奏をありがとうございました。私は音楽部でビオラを弾いています。この部に入るまでは、クラシックにはあまり興味を持っていませんでした。今私が弦楽器を弾いていることさえ信じられませんが、不思議なもので、今はテレビやラジオなどでクラシックが流れるとつい耳を傾けてしまいます。

私は今まで身近でプロの方の演奏を見る機会がなかったので、一番前に座って演奏や弾き方を見たかったです。残念だったのは弦が全く見えなかったことでした。その代わり耳でしっかり聞きました。

1曲目の「春」が始まったとたん、自分の耳



を疑いました。それほどピッチが揃っていて、口では綺麗としか言い表わせませんが、感動でした。今自分が同じ楽器を弾いているのにも改めて感動し驚いている程です。この瞬間私は、この楽器を弾いているからこそ味わえる感動を持てたことに感謝しています。音楽は本当に人の心を和やかにしてくれるものです。司会の方や他の皆さんの楽しく分かりやすい説明や演奏で、より一層楽しめました。

私達も、この前チャリティーコンサートを聞き、多くのお客さんに来ていただき大成功のうちに終えることができました。私は演奏する立場も聞く立場も両方経験しています。とても素晴らしいことだと思っています。演奏会は、演奏者も聞く方も1つになったとき始めて感動が生

まれるものだと思います。

私は、同じ演奏者としてもう1つ感動させられたのは、司会の方が「私達は、山口県で一番の楽団です。」とはっきり言われたことです。演奏者として自分の演奏に強い自信を持つことも重要なことに気づき、この演奏会を通じて多くのことを皆さんから教わり、何十倍も得をした気分です。

3年に1回ということで、高校でお会いするのは今回で最後なのは残念ですが、私にとっても、皆さんにとってもこの演奏会が1つの大きな思い出になると嬉しいです。

これからもこの演奏会を通じて多くの人に夢と感動を与えていって下さい。今後のご活躍を心からお祈りしています。

《自主事業》日本の音楽～尺八と箏

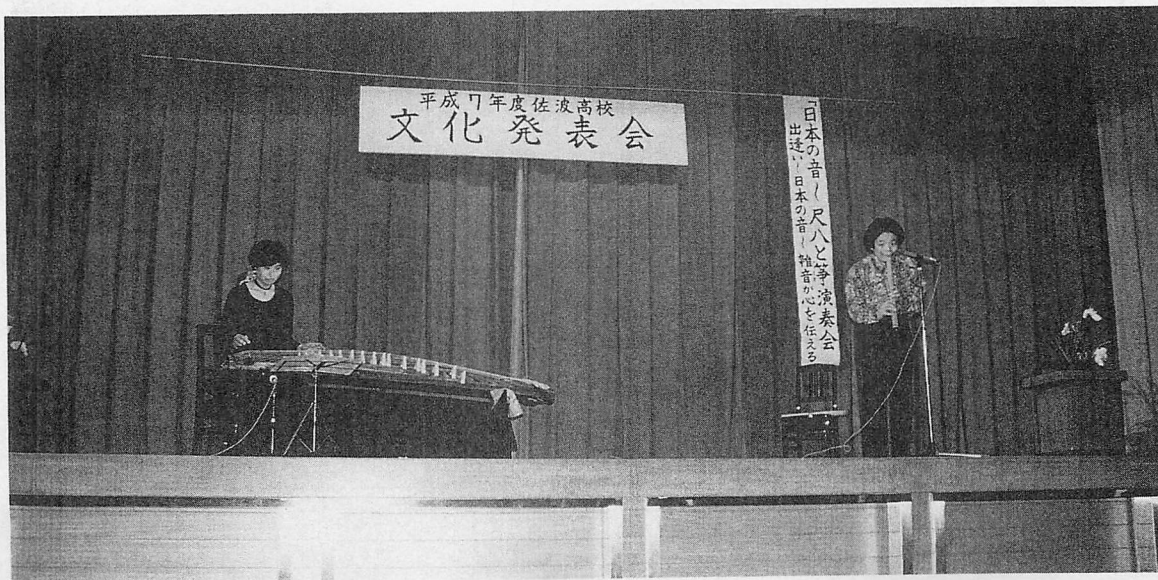
演奏会を通して教わったこと

佐波高等学校

守田貴弘

尺八と箏といったら古めかしいものしか想像できませんでしたが、意外でした。音楽の授業の時に“達人が来る”と聞いていていましたが、ただの達人ではなくてパイオニアのように

思えました。吹奏楽の楽器ではよく知っているフラッターやグロウルなどの演奏方法も興味深かったです。以前、エレクトーンと尺八という組合せのコンサートへは行ったことがありましたが、地味そうに思える尺八と箏でも興奮するものがありました。



出逢い「日本の音楽～」

雑音が心を伝える～」

下関女子短期大付属高等学校

音楽科 中村祐子

私は、音楽がとても好きです。又いろいろな、楽器に興味を持っています。だけど私は、日本古来の楽器について、ほとんど耳を傾けたことがありませんでした。だから、この演奏会に参加できたことをとても光栄に感じております。真にありがとうございました。

今日、演奏された、「風の歌」「鶴の巣籠」「鳥のように」の曲を見てみると、すべて、自然についての音楽だということがわかります。自然を楽器で表すことができるということは、音楽を勉強している私達にとっては、1番うれしいことで、とても素晴らしいことです。

日本古来の尺八や箏が、西洋のジャズ、ポップスなどと相性が良いということは見通しもつ

かない意外性を見つけ出すことができました。

尺八の中村明一さん、箏の八木美知依さんは、近代化が進む音楽界の中で、尺八の持つ特性を生かし、箏の持つ音の幅を充分に研究、理解し、海外で勉強したり、米国各地で多数公演され、国際交流基金等によって、音楽家として、名声を上げ、国際文化を通して活躍されているということは、とても素晴らしいことだと思います。今までは、日本の楽器イコール民謡という考え方でしたが、これからは、今、電子オルガンの勉強をしているので、尺八や箏の音を多いにどれだけ上手に取り入れることが今後の課題になってくると思います。私も日本文化を大切にして、日本の独特の楽器を世界の人々に親しんでもらえるようにあります。

この演奏で、今までの私の音楽に対する思考がまた違う方向から見れるようになりました。本当にありがとうございました。





《自主事業》巡回演劇公演

ザ・シェルターを鑑て

熊毛北高等学校

3年 高山 陽

夕焼けを見る。一日の自分の姿を見つめる。そして口では言いつくせない穏やかな心持ちになる。何かが流れ込んでくる。そんな日々の大切な儀式も許されなくなる世の中がいつか訪れるのか。私はこの公演を見てそう繰り返した。少なくとも私には夕空の赤のグラデーションや夜の凍てついて今にもピンピンと割れてこぼれそうな星たちを見ることは毎日を過ごす上で大きなエネルギーとなっているのだ。人々が色々な想いをはせ、大切にしている広いこの空にミサイルが飛び交いグレーに染まることなんて考えられない。だけど近い将来、そのことを現実的な問題として受けとめなければならない時が来るのだろうか。あまり考えたくはないのだけれど。

シェルターとは争いが行われている中でより安全に日々を過ごすことのできる保障付きのハイテクな家だ。私はそれを知った時すぐに、シェルターでの安全な生活を保障する前に、なぜ、ミサイルが飛んでくるという大事態は起こらないと保障するための努力が行われないのか

と思った。人は誰もが幸せになるための答えを探しながら生きていると思う。その人間がどうしてミサイルという全てをゼロにする物を造り出してしまうのか。そしてどうしてその存在を認めてしまうのか。私達の願いはもう届かないのだろうか。いつかシェルターが生活の一部になっているのか。一度入るともうあの空は見られないのだ。海も木も花火も。それならば私は危険でも外で自由に暮らす方を選ぶだろう。こう考える私はひねくれ者かもしれない。でも私の中でミサイルやシェルターは絶対認めることが出来ないのだ。私と同じ想いを抱えている人はきっとどこかにいると思う。そう思っていたい。

ずっとずっと戦争のないこの日が続けばいい。それを実現するのは私たち21世紀を生きていく若者なのだ。この公演を高校生のこの多感な時期に見れて良かった。えらそうな事を言ってしまうと安全や幸せのためにシェルターを備えるよりも心にいつも平和主義を備えていて欲しい。誰もがそうなればシェルターなんて、ミサイルなんて無意味な鉄クズにすぎないのに。ミサイルなんて消しちゃいたい。本当はすごく怖い。この世の中に自然以外で人間より大きな

力をもつものが存在することは絶対あってはならないのいだ。

私達がいつの日かシェルターを所有し、住んでいかなくはいけない日が来たとしても私の空へのあこがれは止むことはないだろう。のんびりと幸せな今、見ていられるだけ夕焼けを見よう。できるだけ空の下で汗をかこう。笑っていよう。そして新しい何かを思い切り吸い込む。

シェルターなんて絶対違うと思う。世紀末の今、呼吸している者全てでもう一度、シェルターの存在を見直すべきなのだ。それが私達未来人に課せられた任務であり、“これから”なのだ。

巡回演劇公演

琴姫物語を鑑賞して

三田尻女子高等学校 3年生の感想より

- * 劇団の人はアマチュアでしたが、上手でした。
- * みんな演技に力が入ってすばらしい舞台でした。よい1日でした。
- * 「鳴き砂」にこのような伝説があるということを知りました。
- * 私は人前で話をするのが苦手なので、大勢の人の前で役になりきって演技をすることができるととてもすごいです。
- * 今日はとてもすばらしい舞台を鑑賞することができて、本当によかったです。
- * すばしかったです。今まで演劇を見たことはありますが、あんな風な感じを受けたのは初めてだったのでおもしろかったです。みんなとても熱心に演技していってましたので感動しました。
- * 「琴姫物語」の劇を見て、私はとても感動しました。どんな人でも勇気をふりしぼって恐れずにやるのが大切だと教えられた気がします。
- * とてもすばらしい演技でした。私もこれくらい打ち込めるものがあればいいなと思いました。

* 三郎太が琴姫がやって来たことによって変わっていく様子が印象に残りました。宇部芸術座の皆さんの演技に迫力があり、この演劇を見ることができて嬉しく思います。

* すばしかったです。感激しました。演技がよかったです。何事にも勇気を出し、行動しようと思いました。

* とてもすばらしい演技でした。最初から終わりまで楽しませてもらいました。今日一日がとてもよい日となりました。これからも、このようなすばらしい演技を多くの人に見せてあげてください。今日は本当にありがとうございました。そして、これからも頑張ってください。

* とてもすばらしい演劇を見せていただきました。皆さんそれぞれ仕事をされた後の夜の練習なのに、とても息があってセリフも間違えることなく上手なのに驚きました。演劇部の人も一緒に共演することが出来、いい勉強になったと思います。高校生活のよき思い出となったでしょう。

* アマチュアとは思えないすてきな演技に感動しました。また夢を追いつづけていることはすばらしいと痛感しました。これからも劇団の皆さんに頑張ってもらいたいです。

* 仕事や学校に行きながらあんなにすばらしい演技ができるなんて羨ましく思いました。「やればできる」ということを教えられた気がします。迫力のある演技はとてもよかったです。

* 舞台装置が本格的ですごかったです。演技などもそれぞれの役になりきって一生懸命やっていると思いました。これからも永く続けてほしいです。

* 音がリアルで面白かったです。

* 笑いがあつたり、悲しくなるようなシーンがあつたり、とても楽しみながら見ることができました。演技力があって、見る方に気持ちが伝わってきました。昼間は仕事や学校に行っておられて、夜になって練習をするという大変な毎日だったと思います。でも、これからも頑張ってすばらしい演劇をみんなで力を合

わせて作ってほしいと思います。

- *「ばさま」の演技が良かったです。
- *アマチュアでも演技がとても上手だったと思います。「腰抜け」と呼ばれていた三郎太が琴姫のおかげで立ち直れたのがよかったと思います。とても迫力があって良かったです。
- *人の命を大切にすることを含めた演技力がすごかったです。
- *演技がとても上手で迫力があって、すばらしかったと思いました。演劇の中で一番印象に残ったことは「人の命を大切にすることこそ強い人だ。」で、確かにそうだと思います。
- *みなさんの演技がとても上手でした。特に「おばあさん」は迫力がありました。「琴姫」のおかげで、「三郎太」に勇気が出て本当によかったです。「しのぶ」とずっと幸せに暮らしてほしいです。
- *演技がとても上手でアマチュアと聞いていたけど、そんな風には見えなかったです。「腰抜け三郎太」と言われていたけど、「琴姫様」のおかげで漁ができるようになって良かったです。なにとはあれ、小さな「きっかけ」でも大切だなと思いました。「おばあさん」の演技には目をひくものがありました。
- *劇団の方の熱意が見ている私たちによく伝わりました。一生懸命やっておられる姿がとても輝いて見えました。私もこれから先、何事にも一生懸命でありたいと思います。
- *「三郎太」が無事浜へ戻れたのは彼が決してあきらめなかったからだろう。人生あきらめたら駄目なのだ。
- *すごい演技力だったと思います。セリフを覚えるだけでも大変だろうに、それに演技を合わせていくと思うとその大変さが伝わって来るようでした。あれだけの人数ですべてをこなしていくのには驚きました。こういう機会はないかなかなかないので鑑賞できてよかったと思います。
- *とてもすばらしい舞台でした。この演劇から何かを得られたような気がします。
- *「三郎太」は最初みんなから「腰抜け三郎太」

と呼ばれていたけれど、「琴姫」によって、海に行くことになったところがとても印象に残りました。皆さんアマチュアとは思えないほど迫力があつたし、表現力があつて驚きました。昼は働き、夜に練習するのは大変だと思うけど、毎日を大切にしているということは見習いたいと思います。

- *最初アマチュアと聞いていたので、それほど本格的ではないのかと思っていましたが、照明や音声や音響効果など、まるでプロの劇を見ているかのようでした。また機会があれば、別の劇も見たいと思いました。
- *演技する人たちにすごく迫力があつてびっくりしました。プロのような演技だったし、生で見ることができてよかったと思います。舞台装置がすごく凝っていて、その情景がよく分かってよかったと思います。
- *「三郎太」が最初が嵐を恐れる臆病ものだったけれど、最終的には立派な漁師として心身ともに成長したので、すばらしいと思いました。そして彼に勇気や愛情を注いだ「琴姫」や「しのぶ」の存在も大きなものだったのではないかと思います。石見の国の伝説のキュキュという砂の音の由来を知ることができたので大変ためになりました。

第10回全国高等学校文芸コンクール都道府県別応募状況一覧

区 分	学 校 数	小 説	評論研究	詩	短 歌	俳 句	文芸部誌	応 募 点 数
1 北 海 道	4	4	0	10	3	3	1	21
2 青 森	23	4	0	80(218)	77(566)	153(1,213)	1	315 (2,002)
3 岩 手	47	16(89)	6	79(1,862)	179(2,332)	137(5,488)	3	420 (9,780)
4 宮 城	2	8	0	44	0	0	0	52
5 秋 田	20	5(16)	1	17(73)	24(60)	63(110)	1	111 (261)
6 山 形	4	5	0	25	0	3	0	33
7 福 島	6	6	0	14	0	0	3	23
8 茨 城	5	8	0	20	6	0	4	38
9 栃 木	3	2	0	18	3	0	0	23
10 群 馬	11	6	1	24	6	21	2	60
11 埼 玉	4	1(6)	0	14(47)	3	12	2	32 (70)
12 千 葉	1	0	0	8	27	75	0	110
13 東 京	6	9	0	12	22	6	0	49
14 神 奈 川	4	2	1	10	0	0	0	13
15 山 梨	8	3(31)	0	4(199)	13(211)	8(383)	0	28 (824)
16 新 潟	6	8(12)	0	11	9(61)	3	3	34 (90)
17 富 山	7	6(30)	0	95(181)	129(357)	9(80)	1	240 (649)
18 石 川	6	9	0	29	74	58	0	170
19 福 井	9	3(22)	1	5(59)	9(64)	12(170)	0	30 (316)
20 長 野	1	0	0	0	603	0	0	603
21 岐 阜	6	6	0	27	7	83	1	124
22 静 岡	8	15	0	19	18	33(450)	3	88 (505)
23 愛 知	3	18	2	14	5	15	0	54
24 三 重	3	2(26)	0	65(678)	8(280)	18	0	93 (1,002)
25 滋 賀	0	0	0	0	0	0	0	0
26 京 都	1	0	0	2	3	3	1	9
27 大 阪	0	0	0	0	0	0	0	0
28 兵 庫	4	4	0	15	6	6	1	32
29 奈 良	5	10	0	5	3	0	1	19
30 和 歌 山	2	2	0	10	0	0	0	12
31 鳥 取	1	0	0	0	0	0	1	1
32 島 根	3	2	0	3	0	0	1	6
33 岡 山	7	4	0	21(33)	12(30)	6	0	43 (73)
34 広 島	14	9	0	42(230)	42(270)	129(447)	6	228 (962)
35 山 口	8	5	3	12(165)	6	9	4	39 (192)
36 徳 島	1	0	0	0	3	0	0	3
37 香 川	5	2	0	7	0	0	4	13
38 愛 媛	3	1	0	3	0	0	2	6
39 高 知	1	1	0	0	0	0	0	1
40 福 岡	8	6	1	39	15	15	3	79
41 佐 賀	0	0	0	0	0	0	0	0
42 長 崎	4	1	0	328	63	976	1	1,369
43 熊 本	4	1	0	8(450)	0	0	2	11 (453)
44 大 分	13	4(47)	0	27(148)	50(114)	54(221)	0	135 (530)
45 宮 崎	0	0	0	0	0	0	0	0
46 鹿 児 島	2	3	0	15	4	19	0	41
47 沖 縄	10	13(20)	0	21	12	366(486)	2	414 (541)
合 計	校 293	214 (452)	16	1,202 (5,076)	1,444 (5,237)	2,295 (10,379)	54	5,225 点 (21,214)

() は県又は学校段階での応募数を含めた数

部門別応募状況一覽

区 分	応募点数 点	応募者数 人	公 私 別		学 年 別			男 女 別	
			公	私	1	2	3	男	女
小 説	214 (145)	208 (143)	112	21	57	77	74	59	149
文芸評論 文芸研究	16 (4)	16 (4)	15	1	3	6	7	5	11
詩	1,202 (758)	906 (542)	179	33	494	221	191	177	729
短 歌	1,444 (769)	595 (370)	129	22	336	128	131	181	414
俳 句	2,295 (1,103)	913 (529)	140	19	492	180	241	275	638
文芸部誌	54 (55)		46	8					
合 計	点 5,225 (2,834)	人 2,638 (1,641)	621	104	1,382	612	644	697	1,941

() 前回

入賞作品数一覽

区 分	応募点数	応募者数	最優秀賞	優秀賞	優良賞	入選	合計
小 説	214	208	◎1	8	9	8	26
文芸評論 文芸研究	16	16				2	2
詩	1,202	906	1	7	11	17	36
短 歌	1,444	595	◎1	5	11	16	33
俳 句	2,295	913	1	4	8	14	27
文芸部誌	54		◎1	3	4	奨励賞6	14
合 計	5,225	2,638	5	27	43	63	138

◎印 文部大臣奨励賞

第1回(昭和61年度) 17都道府県 110校 890点 630人
 第2回(昭和62年度) 30都道府県 202校 1,977点 1,297人
 第3回(昭和63年度) 35都道府県 210校 1,830点 1,235人
 第4回(平成元年度) 39都道府県 235校 1,990点 1,347人
 第5回(平成2年度) 41都道府県 240校 2,112点 1,286人
 第6回(平成3年度) 41都道府県 269校 2,533点 1,595人 総点数 15,842点
 第7回(平成4年度) 42都道府県 282校 2,798点 1,531人 総点数 16,370点
 第8回(平成5年度) 41都道府県 290校 1,919点 1,173人 総点数 17,512点
 第9回(平成6年度) 37都道府県 271校 2,834点 1,643人 総点数 19,143点
 第10回(平成7年度) 43都道府県 293校 5,225点 2,638人 総点数 21,214点

文芸コンクール受賞作品(山口県)

小説部門	優秀賞	県立下松高等学校 3年 温品 由季	『隠された過去』
詩部門	入選	県立厚狭高等学校 2年 吉富 友美	『夏の午後、孤独と静寂』
短歌部門	優良賞	県立下松高等学校 3年 温品 由季	『やけど負い』

平成7年度 山口県高等学校文化連盟事業報告

月	日	事	業	会 場
4	13 26		会計監査 第1回高文連企画運営委員会	山口中央高校 山口中央高校
5	12 23		高文連評議委員会 全国高等学校文化連盟評議委員会	岩国市 東京都 フロラシオン青山
6	15 16 17~18 18 18 22 22 23 23 28	尺八と箏 県高校総合文化祭総合開会式 県高校総合文化祭（器楽・管弦楽、合唱、吹奏楽 マーチングバンド・バトントワリング） 尺八と箏 県高校総合文化祭（日本音楽、吟詠剣詩舞） 山口県交響楽団演奏会 尺八と箏 巡回演劇「劇団のんた」 尺八と箏 平成6年度「高文連」発行		佐波高校 下関市民会館 下関市民会館 下関女子短大付属高校 サンビームやない 萩商業高校 下松高校 熊毛北高校 安下庄高校
7	4		中国地区高文連関係者合同会議	島根県
8	4~8 5 5~8 26~27	全国高校総合文化祭 第6回全国高等学校総合文化祭優秀校東京公演	全国高等学校文化連盟協大理事会 全国高等学校文化連盟各専門部会	新潟県 新潟県 新潟県 東京都 国立劇場
10	4 17 29 28~29	山口県交響楽団演奏会 山口県交響楽団演奏会 県高校総合文化祭（囲碁） 県高校総合文化祭（演劇）		宇部鴻城高校 盲学校 小野田高校 岩国市民館
11	5 13 11 15 18 22 25~26	県高校総合文化祭（放送） 巡回演劇「宇部芸術座」 山口県交響楽団演奏会 巡回演劇「宇部芸術座」 平成7年度「高文連会報」発行 県高校総合文化祭 （美術・工芸 書道 写真）	第1回高文連理事長会	山口中央高校 山口中央高校 徳山工業高校 柳井高校 西京高校 岩国市民会館
12	22	巡回演劇「宇部芸術座」		三田尻女子高校
1	19~20		全国高等学校文化連盟研究大会	神奈川県
2	6 8 16		第2回高文連理事長会 全国高等学校文化連盟理事長会 第2回高文連企画運営委員会	山口中央高校 東京都 フロラシオン青山 山口中央高校
3	25	第14回器楽管弦楽スプリングコンサート		岩国市
【委員会等】 県高校総合文化祭準備（実行）委員会 総合開会式・音楽関係4部門（下関西高校） 展示関係3部門（岩陽高校） 日本音楽、吟詠剣詩舞部門（柳井学園） 演劇部（岩陽高校） 囲碁部（小野田高校） 放送部（山口中央高校） 各専門部会----- 部会長校を中心に開催 各専門部研修会----- 県下各地において開催 【その他】 県高校総合文化祭テーマ・全国高等学校文芸コンクール作品・各種ポスター等の公募 県高校総合文化祭ポスター作成 各種刊行物等の発送				

山口県高等学校文化連盟 【共催】 (山口県芸術祭) 山口県吹奏楽コンクール
 (山口県芸術祭) 山口県合唱コンクール
 アンサンブルコンテスト山口県大会
 【後援】 マーチングコンテスト フェスティバル山口県大会
 全国高校将棋選手権大会 山口予選
 第10回全九州山口高等学校囲碁選手権大会

平成7年度 山口県高等学校文化連盟会計決算書

(単価：円)

[収入の部]

区 分	予 算 額	決 算 額	増減(△減)	摘 要
繰 越 金	1,192,067	1,192,067	0	
会 費	11,557,500	11,503,800	△ 53,700	全日制 200円 定時制・盲・聾・養 50円
学 校 負 担 金	152,000	151,600	△ 400	4学級減
補 助 金	9,327,300 (内訳)2,200,000 7,048,500 78,800	9,322,900 (内訳)2,200,000 7,048,500 74,400	△ 4,400 (内訳) 0 0 △ 4,400	県総文祭県委託金 全総文祭県補助金 全国高文連補助金
調整基金から繰入	2,000,000	2,000,000	0	
雑 収 入	11,133	11,248	115	利息
合 計	24,240,000	24,181,615	△ 58,385	

[支出の部]

区 分	予 算 額	決 算 額	増減(△減)	摘 要
(運 営 費)	1,240,500	1,237,759	2,741	
事務用品費	(内訳) 270,000	(内訳) 221,874	(内訳) 48,126	事務用品、写真、事務機器維持費等
通 信 費	300,000	345,385	△ 45,385	電話 郵便 運送料等
分 担 金	10,000	10,000	0	中国高文連分担金
	246,400	246,400	0	全国高文連分担金
	414,100	414,100	0	全国高文連社団法人化に伴う山口県割り当て
(会 議 費)	2,319,000	1,785,118	533,882	
	(内訳) 400,000	(内訳) 355,538	(内訳) 44,462	県内会議(企画運営委員会 専門部理事長会)
	940,000	575,080	364,920	全国会議(理事長会 研究大会 部会長等会議)
	970,000	846,360	123,640	事務局旅費(会長、事務局員の県内・県外会議等)
	9,000	8,140	860	監査旅費
(事 業 費)	19,913,400	18,526,902	1,386,498	
県 総 文 祭	(内訳)6,660,000	(内訳)6,799,768	(内訳)△ 139,768	総合開会式 各部門大会開催費
全 総 文 祭	8,660,000	7,503,606	1,156,394	生徒旅費・引率教員旅費
自 主 事 業	1,778,400	1,788,400	0	12公演
国 際 交 流	0	0	0	
大会補助金	0	0	0	
専門部会費	1,615,000	1,245,128	369,872	研修費 通信費
印 刷 費	1,200,000	1,200,000	0	高文連集録 高文連会報 県総文祭ポスター 賞状
(調整基金へ繰入)	0	0	0	
(予 備 費)	767,100	299,936	467,164	
合 計	24,240,000	21,849,715	2,390,285	

平成7年度 調整基金会計決算書

(単価：円)

前年度末現在高	今年度一般会計への繰入	今年度末残高
2,000,000	2,000,000	0

(収入) 24,181,615円 - (支出) 21,849,715円 = (繰越) 2,331,900円

上記の通り相違ありません。

平成8年4月11日

監 事 中 村 祥 典
監 事 濑 村 悦 之

平成8年度 山口県高等学校文化連盟事業計画

月	日	事	業	会 場
4	11 24		会計監査 第1回高文連企画運営委員会	山口中央高校 山口中央高校
5	10 21 26	県高校総合文化祭（将棋）	高文連評議委員会 全国高等学校文化連盟評議委員会	萩市 東京都 フロラシオン青山 中国新聞社（山口支局）
6	12 14 15～16 16 22 (下旬) (下旬)	尺八と箏 県高校総合文化祭総合開会式 県高校総合文化祭（器楽・管弦楽、合唱、吹奏楽 マーチングバンド・パトントワリング） 県高校総合文化祭（日本音楽、吟詠剣詩舞） 山口県交響楽団演奏会 平成7年度「高文連」発行	中国地区高文連関係者合同会議	徳山高校（定時制） 萩市民館 萩市民館 山陽町文化会館 華陵高校 鳥取県
8	6～10 7 7～8 29～30	全国高校総合文化祭 第7回全国高等学校総合文化祭優秀校東京公演	全国高等学校文化連盟拡大理事会 全国高等学校文化連盟各専門部会	北海道 北海道 北海道 東京都 国立劇場
9	26	巡回演劇「宇部芸術座」		下関女子短付属高校
10	23 24 26～27 27	巡回演劇「劇団のんた」 山口県交響楽団演奏会 県高校総合文化祭（演劇） 県高校総合文化祭（囲碁）		徳山北高校 宇部工業高校 宇部市渡辺翁記念会館 小野田高校
11	(上旬) 10 18 19 19 15～17 29	県高校総合文化祭（放送） 巡回演劇「劇団のんた」 山口県交響楽団演奏会 山口県交響楽団演奏会 県高校総合文化祭 （美術・工芸 書道 写真） 木月京子・オペレッタの世界	第1回高文連理事長会	山口中央高校 山口中央高校 岩国工業高校 光丘高校 光丘高校 デザインプラザHOFU サンライフ防府 盲学校
12	(中旬)	平成8年度「高文連会報」発行		
1	19～20		全国高等学校文化連盟研究大会	静岡県
2	8 (上旬) (下旬)		全国高等学校文化連盟理事長会 第2回高文連理事長会 第2回高文連企画運営委員会	東京都 フロラシオン青山 山口中央高校 山口中央高校
3	(下旬)	第15回器楽管弦楽スプリングコンサート		下関市
【その他】県高校総合文化祭準備（実行）委員会 総合開会式・音楽関係4部門（萩高校） 展示関係3部門（防府高校） 日本音楽、吟詠剣詩舞部門（厚狭高校） 演劇部（サビエル高校） 囲碁部（小野田高校） 放送部（山口中央高校） ----- 主管校において開催予定 各専門部会----- 部会長校を中心に開催予定 各専門部研修会----- 県下各地において開催予定				

平成8年度 山口県高等学校文化連盟会計予算書

(単価: 円)

[収入の部]

区 分	予 算 額	決 算 額	増減(△減)	摘 要
繰 越 金	2,331,900	1,192,067	1,139,833	
会 費	19,340,000	11,557,500	7,782,500	全日制 350円×55,100人 定時制・盲・聾・養 50円×1,100人
学 校 負 担 金	150,100	152,000	△ 1,900	19学級減
補 助 金	11,617,900 (内訳)2,200,000 9,343,500 74,400	9,327,300 (内訳)2,200,000 7,048,500 78,800	2,290,600 (内訳) 0 2,295,000 △ 4,400	県総文祭県委託金 全総文祭県補助金 全国高文連補助金
調整基金から繰入	0	2,000,000	△2,000,000	
雑 収 入	15,100	11,133	3,967	利息
合 計	33,455,000	24,240,000	9,215,000	

[支出の部]

区 分	予 算 額	決 算 額	増減(△減)	摘 要
(運 営 費)	1,350,500	1,240,500	110,000	
事務用品費	(内訳) 270,000	(内訳) 270,000	(内訳) 0	事務用品、写真、事務機器維持費等
通 信 費	410,000	300,000	110,000	電話 郵便 運送料等
分 担 金	10,000	10,000	0	中国高文連分担金
	246,400	246,400	0	全国高文連分担金
	414,100	414,100	0	全国高文連社団法人化に伴う山口県割り当て
(会 議 費)	2,545,000	2,319,000	226,000	
	(内訳) 440,000	(内訳) 400,000	(内訳) 40,000	県内会議(企画運営委員会 専門部理事長会)
	1,137,000	940,000	197,000	全国会議(理事長会 研究大会 部会長等会議)
	959,000	970,000	△ 11,000	事務局旅費(会長、事務局員の県内・県外会議等)
	9,000	9,000	0	監査旅費
(事 業 費)	24,327,000	19,913,400	4,413,600	
県 総 文 祭	(内訳) 7,757,000	(内訳) 6,660,000	(内訳) 1,097,000	総合開会式 各部門大会開催費
全 総 文 祭	11,850,000	8,660,000	3,190,000	生徒旅費935万 引率教員旅費・運送費250万
自主事業	1,645,000	1,778,400	△ 133,400	9公演
大会補助金	50,000	0	50,000	高文連(特殊教育)
専門部会費	1,825,000	1,615,000	210,000	研修費 通信費
印 刷 費	1,200,000	1,200,000	0	高文連集録 高文連会報 県総文祭ポスター 賞状
(調整基金)	4,000,000	0	4,000,000	
(予 備 費)	1,232,500	767,100	465,400	
合 計	33,455,000	24,240,000	9,215,000	

平成8年度 調整基金会計予算書

(単価: 円)

前年度末現在高	今年度調整基金へ繰入	今年度末残高
0	4,000,000	4,000,000

山口県高等学校文化連盟規約

平成元年4月1日改正
平成2年4月1日改正
平成3年4月1日改正
平成4年4月1日改正
平成6年4月1日改正
平成8年4月1日改正

第1章 総 則

(名称)

第1条 この連盟は、山口県高等学校文化連盟と称する。

(事務局)

第2条 本連盟の事務局を山口市宮島町6番1号山口中央高等学校に置く。

(目的)

第3条 この連盟は、高等学校における生徒の創造活動の向上充実を図り、文化活動の健全な発展と芸術文化の振興に資することを目的とする。

(事業)

第4条 この連盟は、前条の目的を達成するために、次に掲げる事業を行う。

- (1) 山口県内の高等学校等による文化行事の開催に関する事業
- (2) 全国高等学校文化連盟が主催する行事への派遣に関する事業
- (3) 芸術文化に関する研修会、講習会、鑑賞会、講演会等の開催に関する事業
- (4) 高等学校等の文化活動に関する調査研究事業
- (5) 高等学校による文化活動の国際交流に関する事業
- (6) その他前条の目的の達成に必要な事業

(組織)

第5条 この連盟は、山口県内の公立及び私立すべての高等学校並びに高等部を設置している盲学校、ろう学校及び養護学校をもって組織する。

- 2 山口県内を七つの地域に分け、地域ごとに連合体を組織することができる。この場合において、地域の区分は、山口県高等学校校長会の区分と同じものとする。

第6条 この連盟に、次の専門部を置く。

- 2 専門部は、演劇、器楽・管弦楽、合唱、吹奏楽、マーチングバンド・バトントワリング、日本音楽、吟詠剣詩舞、美術・工芸、書道、写真、囲碁、将棋、放送等の各部門とする。

第2章 役 員

(役員)

第7条 この連盟に次の役員を置く。

- | | |
|--------------------------------|----------------|
| (1) 会 長 1人 | (4) 支部長 7人 |
| (2) 副会長 若干人 | (5) 専門部会長 13人 |
| (3) 評議員 94人以上
(会長及び副会長を含む。) | (6) 専門部理事長 13人 |
| | (7) 監 事 2人 |

(役員を選出)

第8条 役員を選出は、次のとおりとする。

- (1) 会長及び副会長は、評議員の互選により選出する。
 - (2) 評議員は、加盟校の校長をもって充てる。
 - (3) 支部長・専門部会長・専門部理事長は、各地域及び専門部の推薦に基づき、会長が委嘱する。
 - (4) 監事は、評議員会の推薦に基づき、会長が委嘱する。
- 2 役員の兼任は妨げない。

(役員の職務)

第9条 役員の職務は、次のとおりとする。

- (1) 会長は、この連盟を代表し、会務を統括する。
- (2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときはその職務を行う。
- (3) 評議員は、評議員会に出席し、この連盟の事業について審議する。
- (4) 支部・専門部会長・専門部理事長は、企画運営委員会を構成し、この連盟の会務を審議し、執行する。
- (5) 監事は、会計を監査する。

(役員の任期)

第10条 役員は高等学校等に在職する者とし、その任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 役員に欠員が生じたときは、必要に応じて補充する。ただし、任期は、前任者の残任期間とする。

第3章 会 議

(会議)

第11条 この連盟の会議は、次に掲げるとおりとし、会長が必要に応じて、これを招集する。

- (1) 評議員会
- (3) 理事長会

- (2) 企画運営委員会

- 2 会議の議長は、会長がこれに当たる。
- 3 会議は、構成員の2分の1以上の出席がなければ、開会することができない。
- 4 会議の議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長がこれを決定する。
- 5 会議に出席できない構成員は、代理人に表決を委任することができる。この場合において、前2項の規定の適用については、会議に出席したものとみなす。

(評議員会)

第12条 評議員会は、次の事項を審議し、決定する。

- (1) 規約の制定及び改廃に関する事項
- (3) その他連盟の運営に係る重要事項
- (2) 予算及び決算に関する事項

(企画運営委員会)

第13条 企画運営委員会は、次の事項を審議し、決定する。

- (1) 評議員から委任された事項
- (3) その他連盟の運営に係る軽易な事項
- (2) 会務の運営及び執行に関する事項
- 2 企画運営委員会に事業の運営及び執行のために委員会を置くことができる。
- 3 委員会は、事業を主管する学校長を委員長とし、委員として当該事業担当の教職員若干人及び専門教職員をもってこれに充てる。
- 4 委員会の委員の任命及び委員会議の招集は、委員長が行うことができる。

(理事長会)

第14条 理事長会は、次の事項を審議し、決定する。

- (1) 企画運営委員会から委任された事項
- (2) その他各専門部の運営に係わる事項

第4章 会 計

(経費)

第15条 この連盟の経費は、各高等学校等の分担金、県内の高等学校等の生徒の会費、補助金、寄付金及びその他の収入をもって充てる。

(予算及び決算)

第16条 この連盟の収支予算は、評議員会の決議により定め、収支決算は、会計年度終了後、監事の監査を経て次の評議員会でその承認を得なければならない。

(会計年度)

第17条 この連盟の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(会計経理)

第18条 この連盟の会計経理の手続については、企画運営委員会の議決を経て別に定める。

第5章 事務局

(事務局)

第19条 この連盟の事務を処理するため、事務局を置く。

(運営)

第20条 事務局の運営に関しては、企画運営委員会の議決を経て、別に定める。

第6章 雑 則

第21条 この連盟の規約の施工について必要な事項は、評議員会の議決を経て、別に定める。

附 則

この規約は、平成6年4月1日から施行する。

(山口県高等学校文化連盟諸規程)

山口県高等学校文化連盟会計規程

昭和62年4月1日制定
平成4年4月1日改正
平成5年4月1日改正
平成8年4月1日改正

第1条 この規程は、山口県高等学校文化連盟規約に基づき、会計経理に関し必要な事項を定めるものとする。

第2条 すべての収入、支出は予算に計上しなければならない。

第3条 会長は、収支予算書及び事業計画書の案を作成し、これを評議員会に提出しなければならない。

第4条 会計経理は、収入科目、支出科目及び整理科目を設けて経理の整理をし、現金及び預金出納簿を備え、全ての経理内容を記入するものとする。

第5条 会長は、決算報告書について、監事の監査を受けた後、これを評議員会に提出しなければならない。

第6条 各高等学校は、毎年5月31日までに、会費を納入するものとする。

会費内訳

各高等学校生徒一人当たり1年に (全日制生徒) 350円

(定時制、盲、聾、養護学校高等部生徒) 50円

各学校負担金(定時制、盲学校、聾学校、及び養護学校は除く)

学級数×100円

第7条 この規程の執行に関し必要な事項は、会長が定める。

附 則

この規程は、平成5年4月1日から実施する。

山口県高等学校文化連盟事務局規程

昭和62年4月1日制定

昭和62年7月14日改正

第1条 この規程は、山口県高等学校文化連盟規約に基づき、事務局の運営に関し必要事項を定めるものとする。

第2条 事務局に次の職員を置く。

(1) 事務局長

(2) 事務局員 ア 総務係

 イ 庶務係

 ウ 会計係

第3条 事務局長は、会長の命を受け、事務局の事務を統括する。

第4条 事務局員総務係は、事務局長の命を受け、総務・企画・文書・調査研究に関する事項を分掌する。

第5条 事務局員庶務係は、事務局長の命を受け、庶務に関する事項を分掌する。

第6条 事務局員会計係は、事務局長の命を受け、会計に関する事項を分掌する。

第7条 事務局の会計に関する規程その他事務処理上必要な諸規程は、別に定める。

第8条 その他事務局の細目的事項は、会長が別に定める。

第9条 会長が命令する出張等の旅費は、山口県旅費規程に準じて支給する。

附 則

この規程は、昭和62年7月14日から実施する。

山口県高等学校文化連盟表彰規程

昭和62年4月1日制定

昭和62年7月14日改正

平成元年4月1日改正

平成2年4月1日改正

平成6年4月1日改正

平成8年4月1日改正

第1条 山口県高等学校文化連盟規約第4条6号に基づく表彰規定を次のように定める。

(表彰の種類)

第2条 本規定に基づく表彰は、次のとおりとする。

(1) 文化功労賞

(2) その他、会長及び企画運営委員会が必要と認めたもの。

(文化功労賞)

第3条 本賞は、山口県高等学校文化連盟の生徒であって、当該年度の卒業予定者を対象として授与する。

第4条 受賞人員は在籍生徒数300名に対し1名の割合を原則とする。

第5条 本賞の受賞者の選考は、当該学校に一任する。

第6条 本賞の受賞者の選考基準は、次のとおりとする。

(1) 人格、識見共に優秀と認める者。

(2) 芸術文化活動歴が優秀である者、ただし、その活動は学校の内外を問わない。

第7条 各学校は、受賞者を決定し、別記様式(1)により、本連盟事務局あて報告するものとする。

第8条 本賞の授与は、卒業式に関する行事に際し、施行することを原則とする。

(その他、会長及び企画運営委員会が必要と認めたもの)

(優秀芸術文化賞)

第9条 本賞は、山口県高等学校文化連盟加盟校の生徒であって、13部門において、全国大会等で特に優秀な成績をおさめたと認められた個人並びに団体を対象とする。

(功績賞)

第10条 本賞は、山口県高等学校文化連盟加盟校の教職員であって、長年にわたり本連盟の発展に寄与した者を対象とする。

(優秀指導者賞)

第11条 本賞は、山口県高等学校文化連盟加盟校の教職員であって、13部門において、全国大会等で優秀賞を授与され、且つ、長年にわたり部の指導に当たってきた者を対象とする。

第12条 第9条、第10条、第11条の授賞については、高文連企画運営委員会に諮り、これを決定する。本賞の授与は県総文の総合開会式で行うことを原則とする。

附 則

この規程は、昭和62年4月1日から実施する。

山口県高等学校文化連盟旅費支給基準

昭和62年4月1日制定

昭和63年4月25日改正

平成元年4月1日改正

- 1 会長が招集する会議等の旅費は、山口県旅費規程に準じて支給する。
- 2 県総文の運営に関する旅費は、委託された主管校から山口県旅費規程に準じて支給する。
ただし、その際の役員日当は1,200円とし、宿泊費は5,000円(打切り)とする。
- 3 全国高校総文に関する旅費は、
引率教員は、山口県旅費規程に準じて支給する。
生徒は、[交通費実費(学割・団体割引)+宿泊費(大会規定料金)×2泊]×1/2とする。
※ 新幹線のみで100km以上の場合は特急指定料金を含む。(ただし県内は除く)
※ 在来線で100km以上の場合は急行または特急指定料金を含む。(ただし県内は除く)
- 4 専門部会長及び支部長が、県高等学校総合文化祭運営協議会(顧問会議、支部長会議等)を開催する場合は、出席者の在籍する各学校でこれを負担するようお願いする。

平成7年度 山口県高等学校文化連盟役員一覧

職 名	氏 名	支 部 ・ 部 門	所 属 校
会 副 長 会 長 々 々	桂 雄 三 吉 天 輔 小 野 田 勝 範 田 穰 亮		山口中央高校 岩 国 高 校 下 関 西 高 校 山口県鴻城高校
支 部 長 々 々 々 々 々	吉 村 洋 輔 矢 倉 茂 生 繁 富 健 治 桂 尾 雄 三 中 荒 卷 光 宏 石 村 大 源 拙 吾	岩 国 支 部 柳 井 支 部 徳 山 支 部 山口中央高校 宇 部 支 部 下 関 支 部 萩 支 部	岩 国 高 校 柳 井 高 校 徳 山 高 校 山口中央高校 宇 部 高 校 下 関 南 高 校 萩 高 校
専 門 部 会 長 々 々 々 々 々 々 々 々 々	小 林 堅 而 荒 藤 卷 大 藤 本 本 健 慎 繁 富 谷 信 治 古 十 部 益 成 五 部 益 一 西 部 尚 之 今 岡 靖 刀 繁 橋 富 健 治 橋 本 英 樹 原 田 哲 矢 桂 雄 三	演 劇 部 門 器 楽 ・ 管 弦 楽 部 門 合 唱 部 門 吹 奏 楽 部 門 マーチングバンド・パ マントフリング部門 日 本 音 楽 部 門 吟 詠 剣 詩 舞 部 門 美 術 ・ 工 芸 部 門 書 道 部 門 写 真 部 門 囲 碁 部 門 放 送 部 門	下 関 商 業 高 校 下 関 南 高 校 野 田 学 園 高 校 徳 山 高 校 宇 部 女 子 高 校 中 村 女 子 高 校 聖 光 高 校 厚 狭 高 校 徳 山 高 校 小 野 田 工 業 高 校 小 野 田 高 校 山口中央高校
専 門 部 理 事 長 々 々 々 々 々 々 々 々 々	石 井 末 雄 松 永 忠 雄 石 島 柴 雄 椎 木 浩 子 花 村 慈 二 中 野 村 慈 照 藤 井 美 靖 子 庄 井 島 信 基 荒 瀬 永 宏 元 谷 敏 心 塩 谷 彦 青 木 幸 子	演 劇 部 門 器 楽 ・ 管 弦 楽 部 門 合 唱 部 門 吹 奏 楽 部 門 マーチングバンド・パ マントフリング部門 日 本 音 楽 部 門 吟 詠 剣 詩 舞 部 門 美 術 ・ 工 芸 部 門 書 道 部 門 写 真 部 門 囲 碁 部 門 放 送 部 門	下 関 商 業 高 校 下 関 南 高 校 野 田 学 園 高 校 徳 山 高 校 宇 部 女 子 高 校 中 村 女 子 高 校 聖 光 高 校 厚 狭 高 校 徳 山 高 校 小 野 田 工 業 高 校 小 野 田 高 校 山口中央高校
監 事 々	浜 村 悦 巳 中 村 村 祥 典		防 府 商 業 高 校 宇 部 商 業 高 校
事 務 局 長 総 務 部 庶 務 部 会 計 部	中 邑 立 夫 角 中 悦 太 田 村 知 津 子		山口中央高校 山口中央高校 山口中央高校

平成8年度 山口県高等学校文化連盟役員一覧

職 名	氏 名	支 部 ・ 部 門	所 属 校
会 長 副 会 長 〃 〃	森 本 紘 史 吉 天 村 洋 輔 宮 野 本 勝 範 弘		山口中央高校 岩 国 高 校 下 関 西 高 校 香 川 高 校
支 部 長 〃 〃 〃 〃 〃	吉 村 洋 輔 矢 倉 茂 生 桂 雄 三 森 本 紘 史 中 尾 光 宏 松 井 村 忠 夫 石 源 吾	岩 国 支 部 柳 井 支 部 徳 山 支 部 山口中央高校 宇 部 支 部 下 関 支 部 萩 支 部	岩 国 高 校 柳 井 高 校 徳 山 高 校 山口中央高校 宇 部 高 校 下 関 南 高 校 萩 高 校
専 門 部 会 長 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃	小 林 堅 而 松 井 本 夫 藤 本 慎 桂 雄 三 縄 田 研 吾 五 十 部 益 一 西 岡 尚 之 今 岡 靖 刀 桂 橋 雄 三 橋 本 英 樹 原 田 哲 矢 竹 藤 朔 郎 松 村 旭	演 劇 部 門 器 楽 ・ 管 弦 楽 部 門 合 唱 部 門 吹 奏 楽 部 門 マーチングバンド・パ トントワリング部門 日 本 音 楽 部 門 吟 詠 剣 詩 舞 部 門 美 術 ・ 工 芸 部 門 書 道 部 門 写 真 部 門 囲 碁 部 門 放 送 部 門 将 棋 部 門	下 関 商 業 高 校 下 関 南 高 校 野 田 学 園 高 校 徳 山 高 校 宇 部 女 子 高 校 中 村 女 子 高 校 聖 光 高 校 厚 狭 高 校 徳 山 高 校 小 野 田 工 業 高 校 小 野 田 高 校 山口農業高校 下 松 高 校
専 門 部 理 事 長 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃	石 井 末 雄 松 永 忠 雄 石 島 栄 子 椎 木 浩 二 花 村 慈 照 中 野 靖 子 藤 井 美 恵 子 庄 島 信 基 荒 瀬 宏 元 永 合 心 竹 内 春 青 木 幸 子 弘 中 敏 之	演 劇 部 門 器 楽 ・ 管 弦 楽 部 門 合 唱 部 門 吹 奏 楽 部 門 マーチングバンド・パ トントワリング部門 日 本 音 楽 部 門 吟 詠 剣 詩 舞 部 門 美 術 ・ 工 芸 部 門 書 道 部 門 写 真 部 門 囲 碁 部 門 放 送 部 門 将 棋 部 門	下 関 商 業 高 校 下 関 南 高 校 野 田 学 園 高 校 徳 山 高 校 宇 部 女 子 高 校 中 村 女 子 高 校 聖 光 高 校 厚 狭 高 校 徳 山 高 校 小 野 田 工 業 高 校 小 野 田 高 校 山口農業高校 下 松 高 校
監 事 〃	浜 村 悦 巳 中 村 村 祥 典		防 府 商 業 高 校 宇 部 商 業 高 校
事 務 局 長 総 務 部 会 計 庶 務 〃	中 邑 立 夫 角 中 悦 太 田 村 知 郎 大 黒 昌 子		山口中央高校 山口中央高校 山口中央高校 山口中央高校

全国高文連の歌

全国高等学校文化連盟制定

向 川 栄 美 作 詞

乗 松 美 紀 作 曲



1. てをのばせば ほら きつと だれかがささえて くれる
2. よびかければ ほら きつと だれかがこたえて くれる



みーわたせーば ほら なかまがいつでも そばにいる きみ
こころをひらけ ば ほら なかまはいつでも まっている きみ



は ひとりじゃない さあ ある きだ そ う
は ひとりじゃない さあ は ば た こ う



ぼくらのぶんか を つく る た め ー に
ぼくらのぶんか を きづ く た め ー に

全国高文連の歌

一、手を伸ばせば ほら

きつと誰かが支えてくれる

見渡せば ほら

仲間がいつでもそばにいる

君は一人じゃない

さあ 歩きだそう

僕等の文化を創るために

二、呼びかければ ほら

きつと誰かが応えてくれる

心を開けば ほら

仲間がいつでも待っている

君は一人じゃない

さあ 翔こう

僕等の文化を築くために

山口県高等学校文化連盟集録「高文連」編集委員

(各 部 門)

合 唱	石 島 栄 子 (野田学園高等学校)
マーチングバンド	花 村 慈 照 (宇部女子高等学校)
バトントワリング	
器楽・管弦楽	松 永 忠 雄 (県立下関南高等学校)
吹 奏 楽	椎 木 浩 二 (県立徳山高等学校)
演 劇	石 井 末 雄 (下関商業高等学校)
日 本 音 楽	中 野 靖 子 (中村女子高等学校)
吟詠剣詩舞	藤 井 美恵子 (聖光高等学校)
美術・工芸	庄 島 信 基 (県立厚狭高等学校)
書 道	荒 瀬 宏 (県立徳山高等学校)
写 真	元 永 百合心 (県立小野田工業高等学校)
囲 碁	塩 谷 敏 彦 (県立小野田高等学校)
放 送	青 木 幸 子 (県立山口中央高等学校)

(事 務 局)

事 務 局 長	中 邑 立 夫 (県立山口中央高等学校)
総 務	角 中 悦太郎 ()
庶 務 会 計	田 村 知津子 ()

平成7年度
山口県高等学校文化連盟集録
「高 文 連」

編集・発行 山口県高等学校文化連盟事務局
 ㊟753 山口市宮島町6-1
 山口県立山口中央高等学校内
 電話 FAX 0839-32-0818
 印 刷 A&C-CREATE co.,ltd. 電話0839-25-0757

